

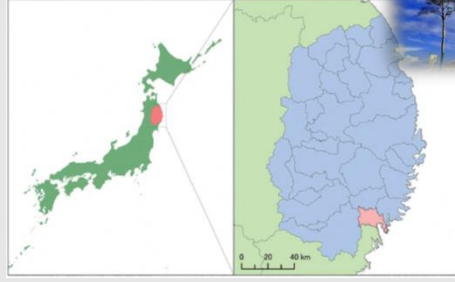
2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

豊かな産地と海に囲まれた三陸海岸の玄関口

面積: 231.94km²
人口: 18,694人



奇跡の一本松



たかたのゆめちゃん

豊富な地域資源



今後のビジョン・計画

障がいのある人もない人も、若者も高齢者も、誰もが快適に過ごせる、いわゆる「ノーマライゼーション」や「バリアフリー」という言葉すらいらぬまちの実現

ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくり

本市の掲げるビジョン



SDGsの基本目標

誰一人取り残さない

SDGsに関する特徴的な取組

◇陸前高田市SDGs推進プラットフォームの設置



- 市と地元事業者でSDGsに対する取組を活性化するためプラットフォームを設置
- 市の将来ありたい姿を考えるワークショップやSDGsに取り組む先進事例の勉強会などを実施

◇陸前高田市SDGs起業家支援プログラムの実施

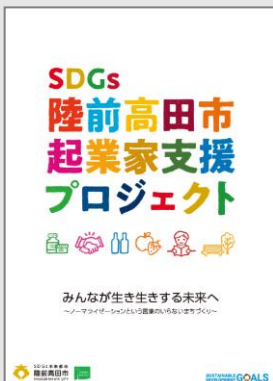


- 市と地元事業者でSDGsに対する取組を活性化するためプラットフォームを設置
- 市の将来ありたい姿を考えるワークショップやSDGsに取り組む先進事例の勉強会などを実施

◇超福祉展2020における取組発表



- 陸前高田市SDGs推進プラットフォーム及びSDGs起業家支援プラットフォームの会員による取組発表
- 参加団体等と連携した取組の模索



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

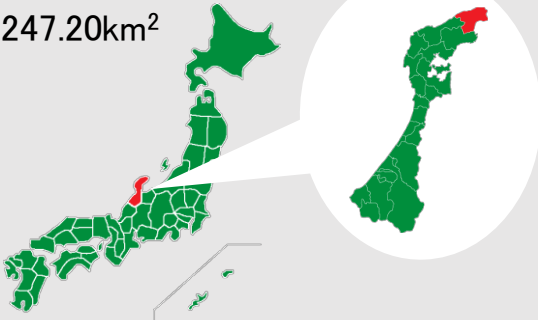


自治体の概要

人口: 13,916人 (R2.3.31現在)

高齢化率: 49.79% (R2.3.31現在)

面積: 247.20km²



今後のビジョン・計画

珠洲市まちづくり総合指針(R2~R6)

「日本一幸せを感じられる珠洲市を目指して」

指針1 だれもが生き生きと暮らせるまち

指針2 ふるさとの未来を育むまち

指針3 人をひきつける魅力あるまち

指針4 みんなが活躍できる活力あるまち

指針5 幸せを感じられるまちの基盤づくり

SDGsに関する特徴的な取組

地域課題解決のためのワンストップ窓口である「能登SDGsラボ」を開設

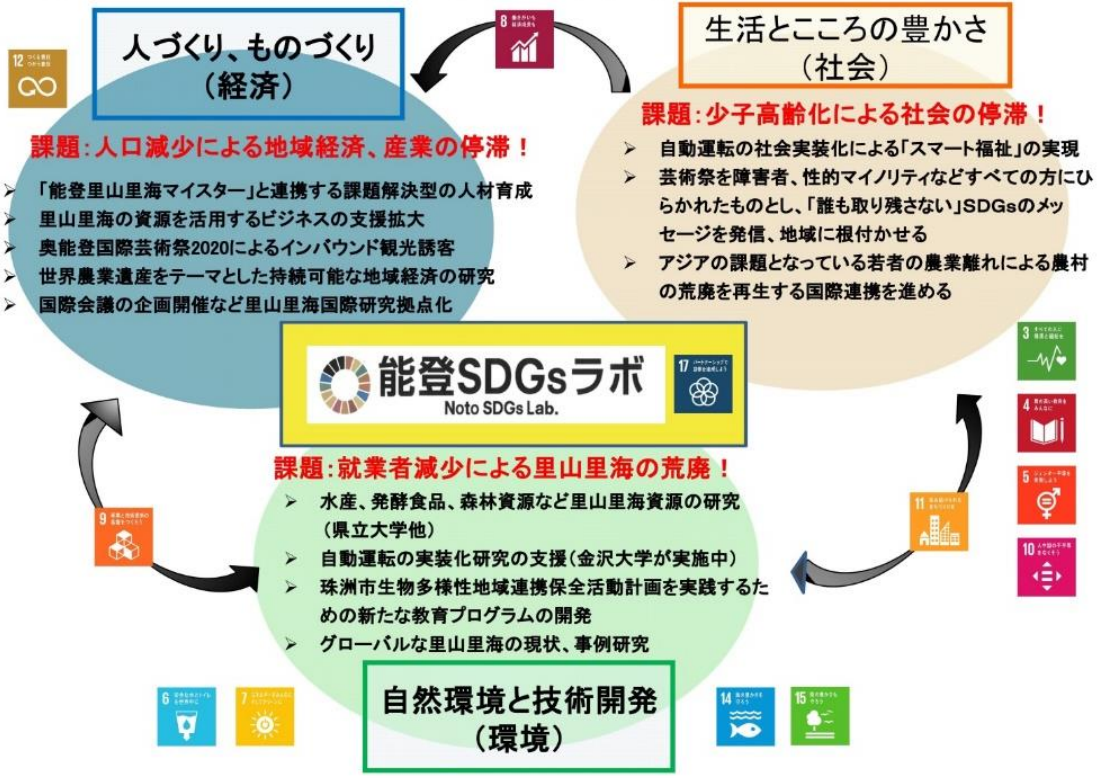
能登SDGsラボとは

環境、社会、経済の3側面の相乗効果や多様なステークホルダー(関係組織)の連携を促進するためのプラットフォーム

＜これまでの取り組み＞

- ①連携研究員制度導入
- ②県内にサテライトオフィス(i-BIRD)開設
- ③ラボ主催のシンポジウムやセミナーの定期開催
- ④中学生・高校生を対象としたSDGs学習の普及
- ⑤児童のためのSDGs教本制作など

能登SDGsラボ: 環境、社会、経済成長の統合へ



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要



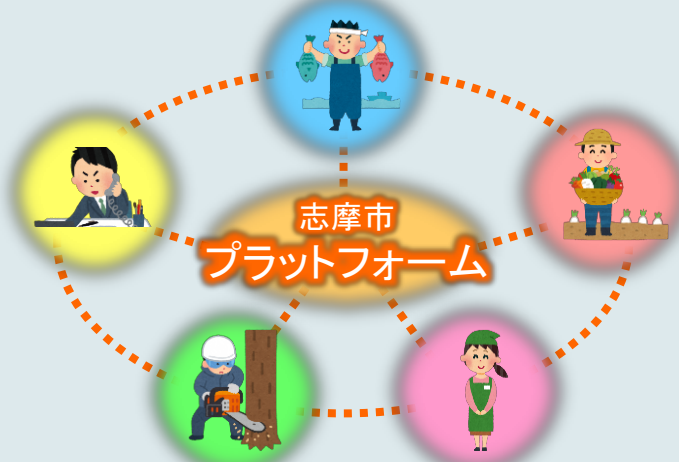
歴史ある食のブランド地域
「御食国 志摩」
みけつくに




- 陸域全域と海域の一部が伊勢志摩 国立公園に指定
- 伊勢志摩サミット開催地
- 太平洋・島サミット開催予定

今後のビジョン・計画

官民連携のためのプラットフォームの設置



SDGsに取り組む団体・企業・個人を募集し、市とのつながりや参加者同士のパートナーシップの構築を目指します。

SDGsに関する特徴的な取組

「御食国」の食文化を未来につなぐまちづくり

みけつくに

◆ 持続可能な漁業に向けて



～共同操業・均等分配の実践～

志摩市を代表する海の幸である伊勢海老。水揚げ量の多い和具地区を中心に、1隻の漁船に数人の漁師が乗り合って漁を行う「共同操業」と水揚げ利益の均等配分を行う「プール制操業」が行なわれ、「資源管理の強化」、「操業コストの縮減」、「価格対策」において、成果が上げられている。

◆ 循環型の里山資源活用



遊休化した里山を地域の資源として見直し、薪炭としての利用を進めるとともに、イノシシなどをジビエとして活用し、地域内における資源と経済の循環を再生していく。地域の未利用資源を持続的に活用しながら、地域内生産・消費の経済的な循環を生み出すための取組。



SDGs認知度向上のために



- ◆ SDGsに関する取組事例の募集を開始
- ◆ 市内小学校へSDGsに関する児童書やお便りの配布
- ◆ 市役所内ギャラリーでのパネル展示
- ◆ 市内図書館へ特設コーナーの設置

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

人口:172,929人(R2.9.1現在)

面積:39.67km²

都心から1時間、歴史遺産や自然を身近に感じるまちとして年間

2,000万人以上の観光客が訪

れる。



今後のビジョン・計画

人口減少・少子高齢化、気候変動や頻発する自然災害など、厳しい環境下において、経済・社会・環境の三側面の課題解決、相乗効果により、都市の価値・高め、持続可能な都市経営の実現を目指す。



SDGsに関する特徴的な取組

先行モデルプロジェクトとして、近代和風の歴史的建造物を保全するとともに、地域コミュニティの醸成や地域経済の活性化(企業研修所等として利用)、文化体験(能・茶・禅など)を通じた日本文化の継承の役割を持たせた古民家活用事例を創出する。

また、利用者にSDGsを体感してもらえる施設環境の整備や、施設運営を推進し、『SDGsショーケース』として、鎌倉市のSDGs達成に向けた取組を発信していく。



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

三豊市

人口:約6万2千人
面積:222.70m²



今後のビジョン・計画

多極分散ネットワーク型まちづくりによる
「ひろく豊かな田園都市」



SDGsに関する特徴的な取組

せとうちスマートアイランド構想

多極分散ネットワーク型における「海と島のみとよ」ゾーン観光活性化策

(取組の概要)

瀬戸内海の海と多島美の景観、アートなど、観光面で高い潜在力を持った資源が存在し、市民による観光まちづくりの先駆的な取り組みが展開されている沿岸部や島しょ部において、世界的に海洋環境の維持・保全に対する関心が高まる中、連携協力協定を締結した一般社団法人タラジャパンと協力し、粟島を日本の拠点として環境学習や海洋環境の保全に向けて総合的に取り組んでいく。



▲タラ号船員による環境学習



©Francis Latreille-Tara Expeditions Foundation

▲世界中の海洋環境を調査している海洋探査船タラ号



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

滋賀県南部に位置し、大阪、名古屋から100km圏内、近畿圏と中部圏をつなぐ広域交流拠点



面積：70.40km²
人口：5万5千人

国宝の建造物を有する「湖南三山」等歴史文化・自然遺産が豊富



今後のビジョン・計画

ずっとここに暮らしたい！
みんなで創ろうきらめき湖南
湖南市総合計画

きらめき・ときめき
・元気創生
湖南市総合戦略

SDGsを盛り込み、改訂予定

湖南市の目指す環境未来像
湖南市環境基本計画

地域産業の総合的な振興を推進
湖南市産業ビジョン

SDGsを目標に位置付け
地域循環共生圏の実現とSDGsへの貢献をめざす
湖南市地域自然エネルギー地域活性化戦略プラン

SDGs未来都市
2020年度SDGs未来都市選定

ゼロカーボンシティ

SDGsに関する特徴的な取組

★湖南市版シュタットベルケ構想によるSDGs未来都市を実現

自治体地域新電力会社「こなんウルトラパワー株式会社」が核となり、域外に流出していた資金を域内に還流させ、それらを原資として地域課題解決に資する事業へと展開、拡充

<p>安全に暮らすことのできる強靱で持続可能な脱炭素なまちづくりの推進</p> <p>9 産業と雇用イノベーション</p> <p>地域資源を活かした農商工+観光の推進</p>	<p>地域資源を活用した取組による地域経済活性化の推進</p> <p>8 経済の持続可能性</p> <p>人材の育成と職場環境の改善による労働力の確保</p>	<p>地域資源との関わりを見つめ直し、誰もが参画できるまちづくりの推進</p> <p>11 持続可能な都市とコミュニティ</p> <p>自立分散型のエネルギー確保</p>
<p>SDGsの視点に立った企業・第二創業支援</p> <p>8 経済の持続可能性</p>	<p>市民・企業のSDGsに資する取組拡大</p> <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>地域産業の活性化、雇用の創出に資する自然エネルギー等の導入</p> <p>7 再生可能エネルギー</p>
<p>地域資源を活用した自然エネルギー等の導入</p> <p>7 再生可能エネルギー</p>	<p>地域の好循環を支える市民主体のまちづくりの推進</p> <p>17 パートnership for development</p>	<p>エネルギー費用の地域内還流による地域経済活性化</p> <p>7 再生可能エネルギー</p>



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

- ・人口: 800,760人 (R2.9末時点)
- ・市域面積: 1,558.06km²
- ・主な産業: 輸送用機器等
- ・主な名産品: 楽器、バイク、自動車、うなぎ、みかん等



今後のビジョン・計画

浜松が「五十年、八十年先の『世界』を富ます」

温暖な「国土縮図型都市」	進取の気風「やрмаいか精神」	多様性と共助にあふれた社会
--------------	-----------------	---------------

最高のサンドボックス	×	旺盛なチャレンジ精神	×	多様な組み合わせと連携
------------	---	------------	---	-------------

2030年のあるべき姿

「高める」、「活かす」、「認め合う」など
浜松市総合計画で示した「1ダースの未来」(2045年の理想の姿)

SDGsに関する特徴的な取組



FSC認証を活用した持続可能な森林経営

市町村別FSC森林認証取得面積 **48,541ha** **全国第1位**

FSC-COC認証取得者数 **61事業者**



持続可能な森林経営の推進

- 適切な森林管理
- 森林施業等の低コスト化

林業・木材産業の成長産業化

- 森林組合や木材関係事業者等の雇用創出・拡大

天竜材の利用拡大

- 住宅・非住宅への積極利用
- 公共物件の木質化



「エネルギー・スマートシティ」の実現

市町村別再生可能エネルギー導入容量

全国第1位

導入容量 **587,582kW** (令和2年3月末時点)

- 地域特性を活かした再生可能エネルギーの導入
- スマートコミュニティの創出
- 浜松市域“RE100”宣言



多文化共生社会の実現

外国人住民数 **25,454人**

- 外国にルーツを持つ子供たちへの教育支援 (浜松モデル)
- 学齢期を過ぎた外国にルーツを持つ青少年のキャリア支援
- インターカルチュラル・シティ・ネットワークに

アジアの都市として初めて加盟

浜松モデル

- ① 転入時等の就学案内
- ② 就学状況の継続的な把握
- ③ 就学に向けてのきめ細かな支援
- ④ 就学後の定着支援

関係機関と連携したオール浜松体制



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要



東松島市は、宮城県のほぼ中央にあり、太平洋に面し、石巻市、松島町等に隣接している。仙台市から電車で約40分。東北地方としては積雪が少なく温暖な地域である。

■人口:39,572人
(2020.10.1現在)
■面積:101.86km²



基地所属のブルーインパルス

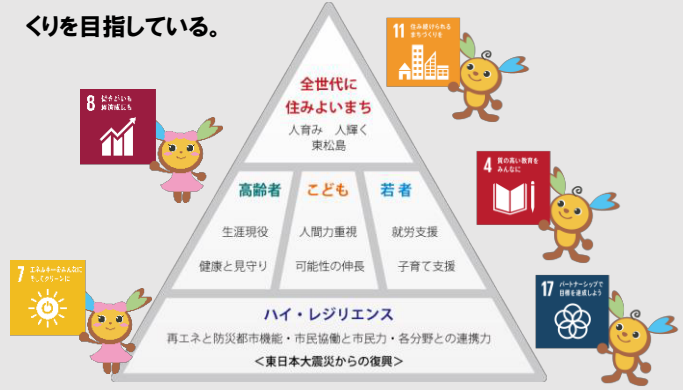


名産のカキ

今後のビジョン・計画

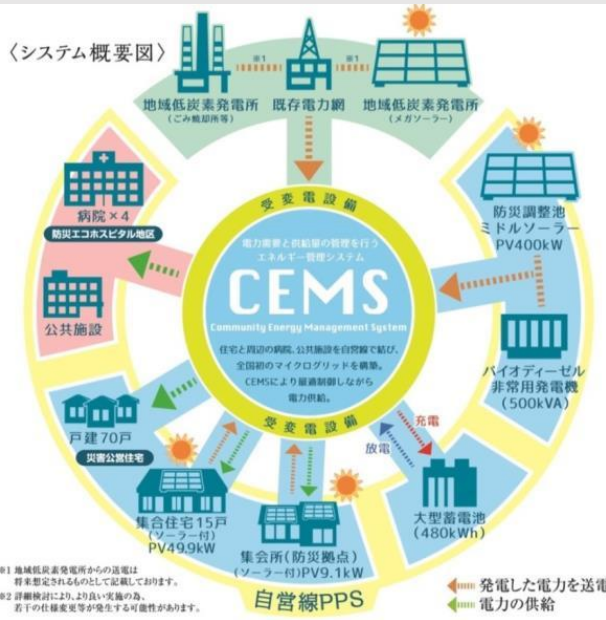
全世代グロウアップシティ東松島

東日本大震災で甚大な被害を受けた東松島市にとって、人口減少抑制と地域経済・社会を発展させることが大きな課題である。2030年に向けて、災害への高いレジリエンスを基盤に、こども・若者・高齢者の全世代にわたって住みよいまちづくりを目指している。



SDGsに関する特徴的な取組

東松島市スマート防災エコタウン



※1 地域低炭素発電所からの送電は
容量想定されるものとして記載しております。
※2 詳細設計により、より良い実施の為、
若干の仕様変更等が発生する可能性があります。

スマート防災エコタウン 東松島市赤井地区



スマート防災エコタウン事業は、公営住宅・集会所・周辺の病院等を自営線で結ぶマイクログリッドを構築し、太陽光発電等により生じた電力をエリア内で地産地消する事業である。災害に強いまちづくりと低炭素社会の実現を目指す取組である。設備を所有する市が、一般社団法人東松島みらいと機構(通称:HOPE)に事業運営を委託している。

- ・スマート防災エコタウンのエリア内は、災害で広域停電が生じても最大3日間は普段通りの電力供給が可能。**ハイレジリエンスなまちづくりのモデル**といえる。
- ・電力供給管理業務や電気工作物保安管理業務で地元雇用を創出しており、**地域経済の活性化**に寄与している。
- ・太陽光発電など環境に配慮した発電により、**自立・分散型低炭素エネルギー社会**の構築に貢献している。

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

【北海道の面積・人口】

面積: 83,424km²
(国土面積の約22%)
人口: 約523万人

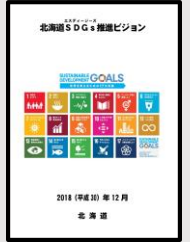
【北海道の価値と強み】

<p>魅力となる雪や寒さ</p> <ul style="list-style-type: none"> 神秘的な自然現象 雪を活用したイベント など 	<p>高い食料供給力</p> <ul style="list-style-type: none"> 我が国有数の食料供給基地 良質な「食の北海道ブランド」 など
<p>地理的優位性</p> <ul style="list-style-type: none"> アジア、ロシア極東との近さ リスク分散の適地 など 	<p>豊富で多様なエネルギー資源</p> <ul style="list-style-type: none"> 風力、太陽光、雪氷熱、バイオマス 大きな可能性を秘めるエネルギー資源 など
<p>優れた技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 厳しい自然に対応する品種改良 積雪寒冷に対応する技術開発 など 	<p>多様性に富む地域</p> <ul style="list-style-type: none"> 個性的な自然、歴史、文化、景観、産業 国内外から高い評価を得ている地域の魅力など
<p>優れた自然環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物多様性の維持 豊かな水資源と森林 など 	<p>独自の歴史・文化</p> <ul style="list-style-type: none"> アイヌの人々の歴史・文化 進取の気質に富む個性ある文化 など

今後のビジョン・計画

【SDGs推進のための計画策定・推進】

- 道民の皆様がSDGsについて考え、行動につなげていく指針として「北海道SDGs推進ビジョン」を策定
- 各種計画等へのSDGsの理念の反映



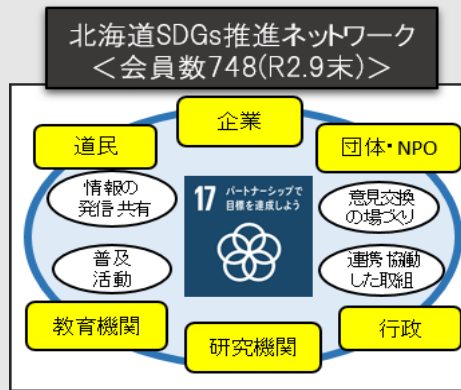
【今後の方向性】



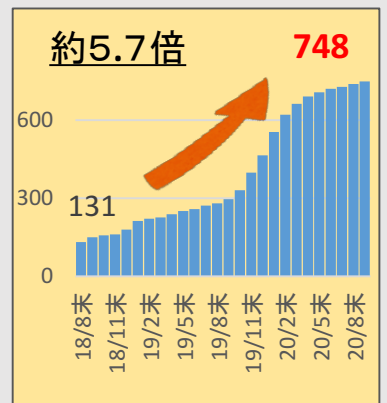
SDGsに関する特徴的な取組

【北海道SDGs推進ネットワークの設立】

企業・団体、自治体などSDGsの実践者や関心のある方々が、情報を共有し、連携・協働する全道的なネットワーク組織 (2018.8設立)



<加入者数の推移>



北海道SDGs推進ネットワークに入会(登録)すると...

- 会員リストを共有、SDGsに取り組む又は関心を有する企業、団体・NPO等を把握
- SDGsに関する情報(取組事例やイベント案内等)を掲載したメールマガジン配信
- シンポジウム・講演等の聴講や他の会員との情報・意見交換
- SDGsに関する道の取組の情報提供
- 連携・協働した取組のパートナー探し

【普及啓発の取組(全道各地での各種セミナーの開催(R1))】

地域別「SDGsセミナー」

広く関心を持ってもらえるよう、カードゲームやワークショップを全道8箇所で開催(合計213人出席)

地域別「交流セミナー」

ネットワーク会員などSDGsに関心のある方の交流の場として全道5箇所で開催(合計288人出席)

SDGs × 北海道交流セミナー2020

ネットワーク会員を対象に実践的な内容の基調講演やトークセッション、会員同士の交流を図るポスター展示交流会を内容とするセミナーを開催(167人出席)



(基調講演)



(ポスター展示交流会)

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

人口25,441人、面積1,093.56km²

角館の武家屋敷と桜

日本一深い湖「田沢湖」

玉川温泉や乳頭温泉郷

“豊富な資源を有する観光地”



今後のビジョン・計画

- ・温泉活用のヘルスケアツーリズム
- ・IoTビジネスモデル構築と産業振興
- ・ICT利活用による地域産業活性化
- ・近未来技術導入による移住・定住人口の増加



市民と行政の協働による
誇りあるまちづくり

SDGsに関する特徴的な取組

取組：温泉水と廃アルミニウムを利用した水素生成

連携先：東北大学大学院環境科学研究科

概要：強酸性・高温の玉川温泉水から恒常的に水素を生成、貯蔵するシステムを構築し「地産地活」型の水素エネルギー活用の技術基盤を確立する



“低炭素社会の実現”

本事業が目指すゴール



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

茨城県の南西部、東京から北東に約50km、成田国際空港から北西に約40kmの距離に位置し、都心部や海外からのアクセスが比較的容易であり、**筑波研究学園都市**として、多くの大学や研究機関が集積している。



今後のビジョン・計画

つくば市未来構想・戦略プラン

1. まちづくりの理念: つなかりを力に未来をつくる
2. 目指すまちの姿:
 - ・魅力をみんなで創るまち(共創都市)
 - ・誰もが自分らしく生きるまち(包摂都市)
 - ・未来をつくるひとが育つまち(人材都市)
 - ・市民のために科学技術をいかすまち(科学技術都市)

SDGsを
市の最上位計画である
つくば市未来構想・戦略プラン
に組み込む

SDGs未来都市(平成30年度に選定)
持続可能都市宣言(令和2年3月に宣言)

SDGsに関する特徴的な取組

★ 市の最上位計画であるつくば市未来構想・戦略プランにSDGsを組み込む

SDGsを通じて、貧困と格差等諸課題を克服しながら次の世代に継承・発展させていく「持続可能都市」を目指す。



・**つくばこどもの青い羽根基金**
貧困の連鎖を断ち切ることを課題として、つくばこどもの青い羽根基金を立ち上げた。市内の就学困難な小中学生に対し、学習支援等を実施。



・**つくばR8地域活性化プラン コンペティション**
周辺市街地8地域をよくしたいという想いと行動力をもった方による持続的かつ自立的な地域振興への貢献。



・**つくばSociety5.0社会 実装トライアル支援事業**
社会課題解決のため、ベンチャー企業等に実証実験のフィールドを提供。

★ つくばSDGsパートナーズ

SDGsの目標に関する取組を行う企業・団体、個人等にSDGs未来都市としての取り組みを幅広く周知しながら、社会課題の解決に取り組むステークホルダー間の連携を促進する。

○ 社会課題解決型ワークショップ「SDGsTRY」

・SDGsパートナーズ会員を対象に、市民自ら社会課題解決に取り組む。



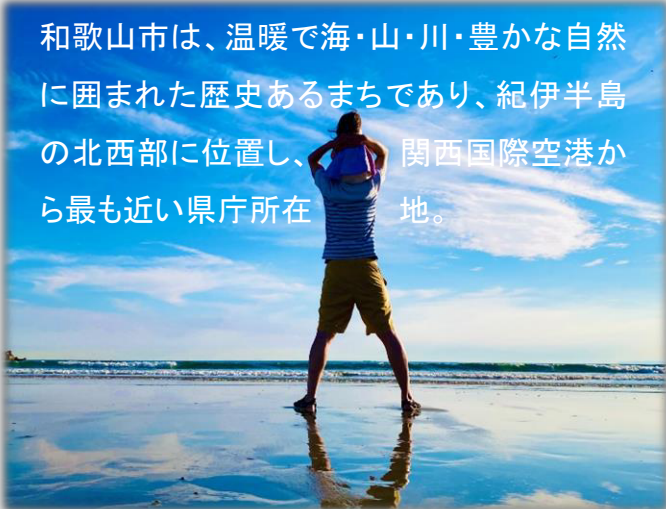
2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

都会×田舎なトカイナカ

和歌山市は、温暖で海・山・川・豊かな自然に囲まれた歴史あるまちであり、紀伊半島の北西部に位置し、関西国際空港から最も近い県庁所在地。



人口:354,042人、面積:208.84km²

今後のビジョン・計画

和歌山市SDGs宣言

(和歌山市SDGs推進ネットワーク作成)

和歌山市SDGs宣言

2030年に向けて、パートナーシップで持続可能な地域を創りましょう！

- **豊かな自然環境の継承**
限りある自然と共存できる暮らしや事業のあり方を追求することで、地球の生態系維持に貢献するとともに、地域の豊かな自然環境を次世代に引き継ぐことを目指します。
- **みんなが暮らしやすい地域社会の実現**
人間の尊厳を守り、多様性を尊重するとともに、社会が抱える諸課題の解決に取り組み、希望の持てる社会の形成を目指します。
- **域内経済の好循環実現と未来に向けた人材の育成**
SDGsへの取組を通して、社会に有用な付加価値の創出を図るとともに、未来を担う人材の育成を通して、自律的好循環を実現する域内経済の形成を目指します。

SDGsに関する特徴的な取組



和歌山市SDGs推進ネットワーク



会員企業団体は170以上
オンラインでシンポジウムや
勉強会兼交流会等を実施



SDGsに関する取組
(市ホームページ)

持続可能な海社会の実現に向けて



産学官連携で
海洋プラの調査



エシカルな
鯛の一本釣り



観光・スポーツ



リノベーションまちづくり



パークPFIによるリノベーション
“the public” が令和2年7月OPEN
国内トップの10都市再生推進法人



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

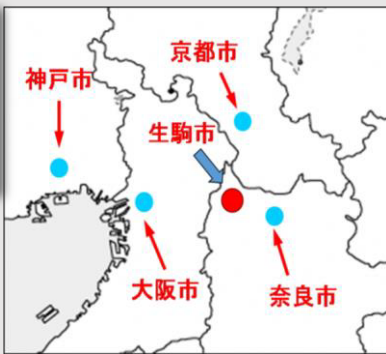


自治体の概要

奈良県北西部に位置する人口約12万人
面積約53km²の住宅都市

特徴

- 1.大都市近郊の住宅都市
- 2.自然豊かで歴史のある街
- 3.高い市民力



今後のビジョン・計画

地域新電力会社「いこま市民パワー」を核とした
日本版シュタットベルケモデルの実現



SDGsに関する特徴的な取組

「いこま市民パワー」を中心とした
電力事業を核とするエネルギーコストの地域内循環の形成・市内経済の活性化

平成29年12月から公共施設、平成30年2月から民間事業所に電力供給を開始。



市役所や消防署など
公共施設



市内の小・中学校や
幼稚園・保育園



民間施設

令和2年9月から
一般家庭への
電力供給を開始



一般住宅

コミュニティサービスによる地域課題の解決

いこま市民パワーは収益を株主には還元せず、まちづくりに活用。



健康教室の開催



登下校見守りサービスの導入

100の複合型コミュニティづくりを推進

移動支援、健康づくり、不用品の有効活用など、様々な機能を持つ複合型コミュニティづくりを推進。



日常のごみ出しを活用した
地域コミュニティ向上モデル事業「資源回収・コミュニティステーション」

SDGs普及啓発



SDGs de 地方創生
カードゲームの実施



環境フェスティバルにて
SDGsクイズを実施

地産電源の積極的活用等による再生可能エネルギーの普及拡大

いこま市民パワーは、10箇所以上の再生可能エネルギー電源から電力を調達。



小水力発電



太陽光発電



木質バイオマス発電

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

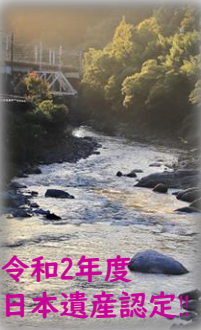


自治体の概要

**とかいなか
ならさんこうが
ちょうどいい**



面積: 8.79km²
人口: 約23,000人
大阪市内まで30分以内!
大阪のベッドタウンとして発展



令和2年度
日本遺産認定!

**豊かな自然と
歴史が残る
コンパクトまち**



今後のビジョン・計画

**ICTとメンターの力で課題を乗り越える
「スマートシティSANGO」の構築**

●地域BWAを活用したネットワークの構築



●メンターの発掘・育成(三郷ひまわりパートナーズ)

自分たちのまちに目を向けそれぞれの分野で地域のために活動されているメンターたちを、システムを構築して把握し、メンターたち同士を結び付ける場を設け、様々なメンターが連携できるような仕組みを作る。

SDGsに関する特徴的な取組

★2019年7月 SDGs未来都市に選定★

○三郷町まちづくり総合戦略にSDGsを反映

各事業とSDGsのゴールとの関連性を整理。
「世界に誇る!! 人にもまちにもレジリエンスな
スマートシティSANGOの実現」に向けて取り組む。



○スマートムーブ



ドアtoドアの送迎を行っている予約制
乗合タクシーに電気自動車を導入。
今後は、さらに自動運転化を検討。



○地域新電力会社(株)三郷ひまわりエネルギー)による 低炭素・脱炭素化事業



電力を供給する施設を増やし、地域内の再生可能
エネルギーを活用したエネルギーの地産・地消に取り組む。



他にも
「SDGs債」への投資を行い、資金運用を通じても
SDGs推進に取り組んでいます♪



三郷町イメージキャラクター
たつたひめ

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

九州のほぼ中央。福岡県最南端。
人口112,815人。

福岡空港から
約1時間30分。

●**おおむた**→

高齢化率
36.7%

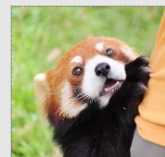
日本の
20年先を行く



今後のビジョン・計画

将来にわたって安心して暮らし、大牟田市に住んでいることを自ら誇ることができるまちづくりを、市民とともに実現することを目指している。

ESD(学び)を核として、継続的な事業実施により、成果の更なる深化及び拡大を図る。



SDGsに関する特徴的な取組

- ◆ 国連大学が認定するESD実践拠点「RCE」への加盟認定(2020)
- ◆ 「第9回ユネスコスクール全国大会」ESD大賞の中の最高賞「文部科学大臣賞」受賞
(2017年12月 大牟田市立吉野小学校)
- ◆ 第3回「ジャパンSDGsアワード」特別賞受賞
(2019年大牟田市教育委員会)



世界遺産学習

2012年1月、日本で初めて市内全ての市立学校がユネスコスクールの認定を受け、学校や地域の実態に合わせて特色あるESDを進めている。有明海、大牟田市動物園、世界文化遺産の「三池港」「宮原坑」を有するという、オンリーワンの特色を活かした事業を展開。

【経済】

近代化産業遺産活用事業

世界遺産学習「宮原坑子どもボランティアガイド」等

【社会】

地域認知症ケアコミュニティ推進事業

福祉学習「絵本教室」、子ども民生委員等

【環境】

省エネ行動促進事業

環境学習環境教育の実施及び海洋教育の支援等



福祉学習



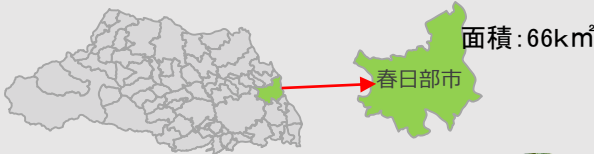
環境学習

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

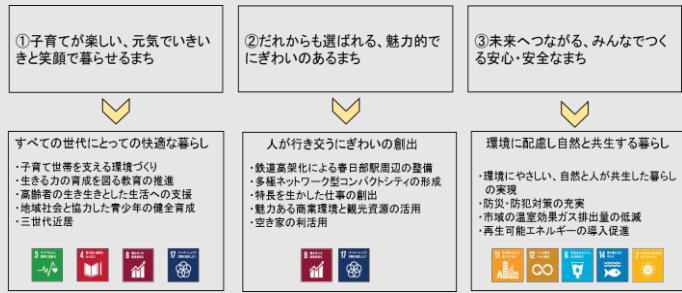
人口約23万人、東京都心から約35kmの埼玉県東部に位置するクレヨンしんちゃんの舞台としても知られる都市である。春日部市は、都心への通勤圏でありながら、水と緑豊かな恵まれた環境が広がり、日光街道の宿場町として、歴史の面影も数多く残している。



今後のビジョン・計画

“だれもが「住んでみたい、住みつづけたい」と思うまち”を目指して

春日部市のSDGs未来都市計画「春日部2世、3世その先へと住みつなぐまち ～未来へ発信する世代循環プロジェクト～」は、高齢者が健康で安心して住み続けられる春日部、若い世代が「住み続けたい!」、就職や結婚で市外に出た人も、「再び春日部で暮らしたい!」と思える、コンパクトで質の高いまちを形成し、住みつがれていく『世代が循環する』まちの実現を目指すものとしている。

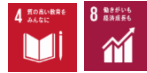


○「SDGs未来都市」に選定

令和2年7月17日、日本における「SDGsモデル」となる先進都市「SDGs未来都市」に埼玉県で2番目に選定。

○かすかベンチャー応援補助金

市内の空き店舗を利用して創業を行う人・創業して5年未満の人に対し、創業の際にかかる費用の一部を補助し、新たな地域産業と雇用創出による地域活性化に取り組む。



○かすかべ自治会カード事業

198の自治会が加盟する春日部市自治会連合会が実施主体として行う事業で、自治会加入世帯会員証としてカードを配布し、家族間の避難場所の共有や、災害時の情報取得などに利用できる。



○幸福をもたらす世代間交流

人口減少と高齢化が進む武里団地居住者を対象に地域貢献に取り組む学生が在籍する大学等に対して、武里団地に居住するための家賃及び大学等までの交通費の一部を補助。多世代が交流する機会を提供することにより、地域全体を活性化させる。



○環境に配慮し自然と共生する暮らし

超小型モビリティの導入を積極的に行い、率先して低炭素化に向けたアクションを行う。



春日部市オリジナルロゴ



ましまるシティ SDGs未来都市 春日部

○「SDGsリーフレット作成」

令和2年10月、市民向けにSDGsに興味を持ってもらい、普及を図っていくためのSDGsリーフレットを作成。



○かすかべSDGsパートナーズを設置

令和2年10月15日には、パートナーズの顔合わせ会として「キックオフミーティング」を開催。外部講師による講演や民間企業のSDGsへの取組発表など、情報交換を行った。

かすかべSDGsパートナーズキックオフミーティングの様子



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要



人口：376,174人 (R2.7.1現在)
 ※うち外国人18,998人
 面積：261.88km²

今後のビジョン・計画

2030年の目指す将来像

- 豊川水系の水・森林環境が保全されている
- 水道技術が継承され、安全・安心な水が供給されている



SDGsに関する特徴的な取組

経済

水と緑に係る経済活動の活性化

民間バイオマス発電施設整備への支援と新たな雇用の創出



雇用の創出

社会

水と緑を守る人材の育成

国内外の水道技術者の育成



インドネシアでの水道技術者育成

環境

水と緑の環境保全

水源林の適正管理と自然災害等の防止



国内最大規模の豊橋市バイオマス利活用センター

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

水と緑に恵まれた豊かな自然環境

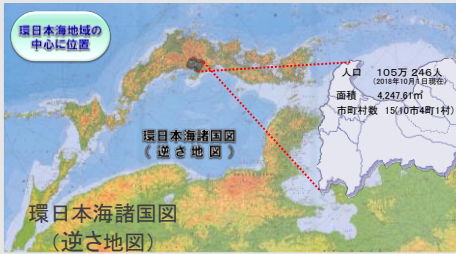
○標高3,000m級の立山連峰から水深1,000mの富山湾まで**高低差4,000m**のダイナミックな地形



○**植生自然比率本州一**の水と緑に恵まれた豊かな自然環境

環日本海の中央に位置する地理的条件

○環日本海・アジア交流の拠点として活発な取組みを展開



今後のビジョン・計画

<将来ビジョン>

環日本海地域をリードする「環境・エネルギー先端県とやま」

- ①世界に誇れる雄大な「立山黒部」や「世界で最も美しい富山湾」など美しい山と海を有し、豊かな水の恵みを活かして持続的な経済発展を実現する県
- ②「富山物質循環フレームワーク」の実現に向けた「とやまモデル」が確立した県



SDGsに関する特徴的な取組

「SDGs未来都市」に選定(2019年7月1日)

環日本海地域をリードする「環境エネルギー先端県とやま」として、SDGs達成の観点を取り入れた各種施策を通じ、持続可能な県づくりを推進

<立山黒部をはじめとする雄大で美しく豊かな自然環境の保全>

室堂平から見た立山連峰



<清らかな水資源の保全と活用>

海岸清掃美化活動



<環日本海地域の環境保全への国際貢献>

各国での漂着物調査



<水と緑の森づくり>

伐採跡地に植栽された優良無花粉スギ「立山 森の輝き」



<「立山黒部」の世界ブランド化>

<国際的ブランド「世界で最も美しい富山湾」の活用>

<循環型社会・低炭素社会づくりの推進>

店頭でのマイバック持参呼びかけ



<「富山物質循環フレームワーク」の実現に向けた「とやまモデル」の確立>

県内で捨てられた手付かずの食品



<水産業の振興と富山湾のさかなのブランド力向上>



富山湾の宝石【シロエビ】



富山湾の朝陽【高志の紅(アカガニ)】

<再生可能エネルギーの導入、新たなエネルギーの利用に向けた開発の促進>

落差を有する農業用水路



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

温暖多照な気候と広大な農地
面積: 100.67km²
人口: 約1万3千人



分別収集所の様子

資源リサイクル率
12年連続日本一

今後のビジョン・計画

「世界の人口一万人地域で応用可能な循環型地域経営モデル確立」

- ・ 持続可能な資源を循環型活用する地域経営モデル
- ・ 自ら課題解決するコミュニティによる地域経営モデル
- ・ 低コストで住民参加型の世界に適用可能な地域経営モデル



インドネシアでの分別収集技術指導の様子

SDGsに関する特徴的な取組

「使い捨て容器の完全撤廃, 脱プラスチック実現」のため,
多様なステークホルダーと大崎町SDGs推進協議会を設立



(参画団体)

- ・ 大崎町
- ・ (株)南日本放送
- ・ 鹿兒島相互信用金庫
- ・ (株)そらのまち
- ・ 合作(株)



未来の大崎町ビジョンマップ

○ 大崎町の掲げるSDGs未来都市計画の実現に向け、3つの事業を柱に活動を展開

- ① 企業版ふるさと納税に加え、企業の研究者や人材を受け入れ、新たな社会システムの構築に取り組む「ジャパンSDGsラボ(仮称)」を設立
- ② 循環型社会に求められる人材を育成する「SDGs教育プログラム」を構築
- ③ 資源リサイクル率12年連続日本一の町の知見を知る「視察研修ビジネス」を展開



設立合同記者発表の様子

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

名古屋・大阪の大都市圏にまたがる全国上位のものづくり県 (2018年工業統計で全国9位)

人口：約179万人 面積：5774.45km²



海の資源を採りすぎない海女漁が受け継がれる地

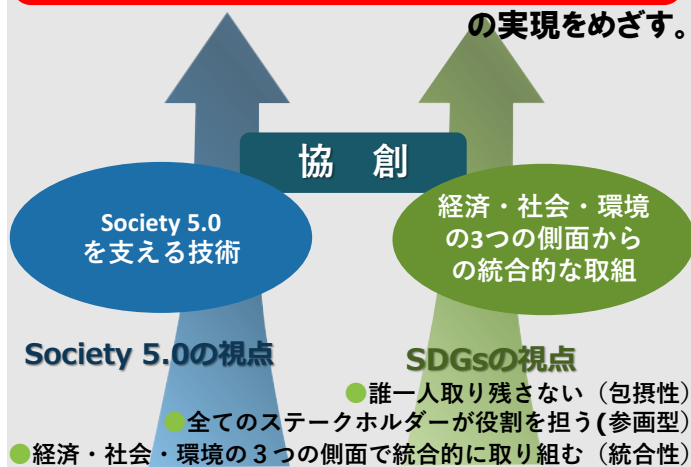


- 2016年「伊勢志摩サミット」県内開催 (パリ協定の早期実施をコミット)
- 2021年「太平洋・島サミット」県内開催予定 (太平洋島しょ国首脳が会する)

今後のビジョン・計画

「協創」の視点に「Society 5.0」及び「SDGs」の視点を取り入れ、

三重県らしい、多様で、包容力ある持続可能な社会



SDGsに関する特徴的な取組

★「みえ県民力ビジョン・第三次行動計画」にSDGsの視点を追加

- ・2020年度から4年間の中期の戦略計画にSDGsの視点を取り入れ、施策を推進
- 視点① 誰一人取り残さない(包摂性)
- 視点② 全てのステークホルダーが役割を担う(参画型)
- 視点③ 経済・社会・環境の3つの側面で統合的に取り組む(統合性)

★令和元年12月に「脱炭素宣言」

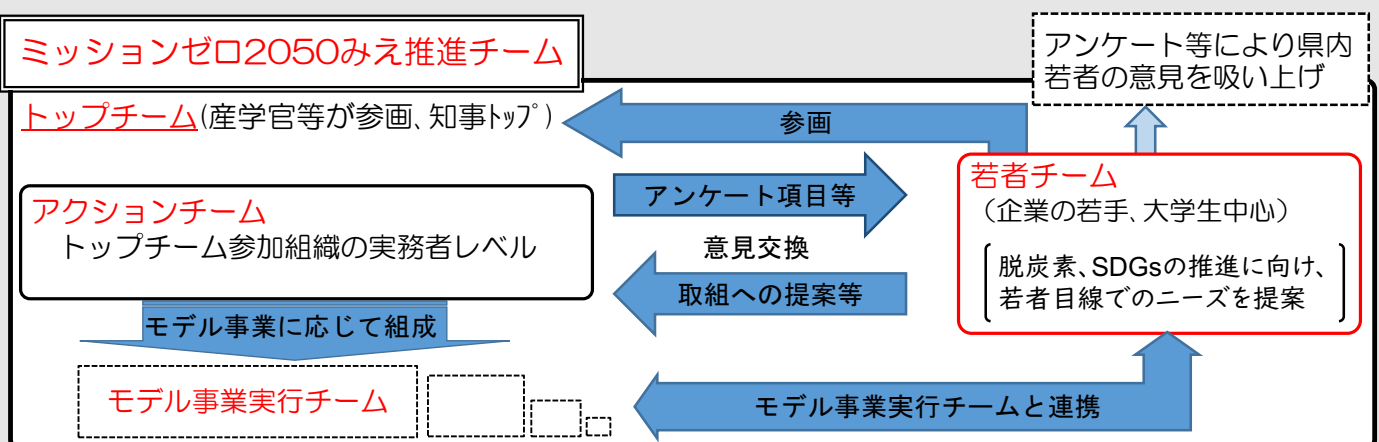


・地球温暖化防止は待ったなしの状況であり、世界的にも、パリ協定の取組がスタートする2020年を目前として、三重県は、2050年までに県域からの温室効果ガスの排出実質ゼロを目指す脱炭素宣言を行いました。(2019年12月)

(小泉環境大臣との対談の様子)

★「ミッションゼロ2050みえ 推進チーム」の取組

・「脱炭素社会」の構築に向けた産学官等によるプラットフォームを構築し、県内若者が参画することで、脱炭素の取組の普及加速、若者のシビックプライドの醸成、県内企業の製品開発の促進、魅力向上、さらには、若者の県内企業への就職、県内定着へとつなげていく。企業や若者にもメリットが生じる、自律的好循環をめざす。



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

東京都で初のモデル都市

- 副都心「池袋」を有する
 - 人口：約29万人
 - 面積：約13km²
- ⇒ **全国で最も人口密度が高い**
- メインカルチャーからサブカルチャーまで、『**芸術文化の発信地**』



池袋西口公園 野外劇場



提供：池袋ハロウィンコスプレフェス2017 / niconico

今後のビジョン・計画

【基本計画（2022年度～）】

文化を基軸に、SDGsを通して「国際アート・カルチャー都市」の実現に向けた、『基本計画』を策定

【広報・普及啓発】

様々な広報活動を展開



10月1号区広報誌『広報としま』



Hareza池袋 SDGsフラッグ

SDGsに関する特徴的な取組

豊島区SDGsモデル事業『公園を核にしたまちづくり』



① 「池袋駅周辺の4公園」を核にしたまちづくり

個性ある4つの公園と周辺企業、それらをつなぐ電気バス「IKEBUS」により、池袋に新たな交流と賑わいを

② 暮らしの中にある「小さな公園」の活用

地域や企業とともに、もっと使いやすく・過ごしやすい公園を

⇒ **訪れたい人・住み続けたい人の増加、区民が誇りを感じるまちへ**

① 池袋駅周辺4公園を核にしたまちづくり



南池袋公園

【のんびりした時間を過ごすことのできる、都心のオアシス】



中池袋公園

【アニメの聖地・池袋の文化にぎわいの発信拠点】



池袋西口公園

【池袋の風を感じながら、演劇やオーケストラなどの芸術文化を】



としまみどりの防災公園

【ファーマーズマーケット開催や、発災時には防災拠点として機能】



IKEBUS

【地域環境に優しい電気を動力として走る、池袋の新たな象徴】

② 暮らしの中にある小さな公園の活用



飲食販売兼本棚等を搭載したパークトラック



公園をみんなで育てよう 井戸端かいぎ



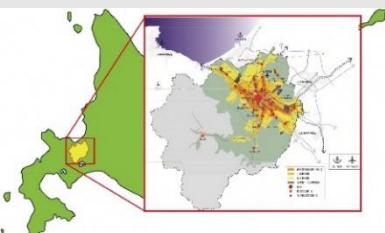
花壇づくりワークショップ

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

都市と自然が共存し、年間約5mもの積雪がある世界にも類を見ない大都市



面積：1,121.26km²
人口：約197万人
(北海道の人口の約3割)

豊富な観光資源



今後のビジョン・計画

◆札幌の将来像

次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な都市『環境首都・SAPPORO』

- 「環境」の取組の推進を“起点”とした「経済」や「社会」への波及を目指す
- 「寒冷地における環境都市」の世界モデルの構築を目指す



SDGsに関する特徴的な取組

日本初のSDGs環境・経済循環都市の形成

世界のモデルとなる「低炭素で持続可能なスマートシティづくり」を推進

- 都心部の高性能なオフィス環境ビルへの建替促進
- 低炭素で持続可能なまちづくりを先導するMICE施設の整備
- 歩いて回遊しやすいリパブルなまちづくりの推進



持続可能な生産と消費の確立

- 北海道の中心都市として、道内の資源やエネルギーを適切に消費し、地域内での経済循環の活性化を目指す
- 持続可能な生産を消費側から支えるため、2019年6月1日に国内5番目の「フェアトレードタウン」に認定



多様なステークホルダーとの連携・情報発信

<環境広場さっぽろ2019>

- 「環境とSDGs」をテーマとし、SDGsに取り組む企業・団体を紹介
- 道内のSDGs未来都市（北海道、ニセコ町、下川町、札幌市）が連携し、道内の他の自治体職員向けのSDGs導入プログラムを実施



<SDGs クリエイティブアワード>

- SDGs達成に向けた取組や情報についての短編映像作品の募集・表彰（全国から330作品の応募）
- 映像・クリエイティブから世界を変革するインパクトのある作品を札幌から世界に向けて発信



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要



ジャージー牛の放牧



地元産業を学ぶ中学生

■人口:44,539人

(令和2年4月1日現在住民基本台帳)

■産業

- ・西日本有数の木材集散地域
- ・日本最大のジャージー牛の酪農地帯

今後のビジョン・計画

2040年の人口の安定と均衡のとれた年齢構成(34,000人)を実現し、「中山間地域の持続的発展モデル」を目指す

(市政の方向)

真庭の地域資源を生かした今の生活
若い世代による新しい魅力づくり
つながり(連携・循環)を生かした地域経営

多彩な真庭の豊かな生活
「真庭ライフスタイル」

SDGsに関する特徴的な取組

ごみを再び資源に ～身近なところから考え実践する～



制作者：淀川テクニク(柴田英昭氏・真庭市出身)

真庭のシシ



ごみの減量化・再資源化を行う持続可能なごみ処理体制づくりのシンボルとして、イノシシをモチーフとしたモニュメントを作成
市民を中心に大人気!

◎東京を始め、県外にも出張実績多数

生ごみ等の資源化



燃えるごみの多くを占める生ごみをはじめし尿・浄化槽汚泥などメタン発酵させて肥料の原料として再生

燃えるごみを減らすことで、ごみ処理コストを大きく削減し、持続可能なまちづくりに大きく貢献

副産物として作った肥料(バイオ液肥)は市民に無料配布しており、大規模農家から家庭菜園まで多くの市民に大変好評に利用いただいているところ

今まで「ごみ」だったものを「資源」として活かす循環のサイクル

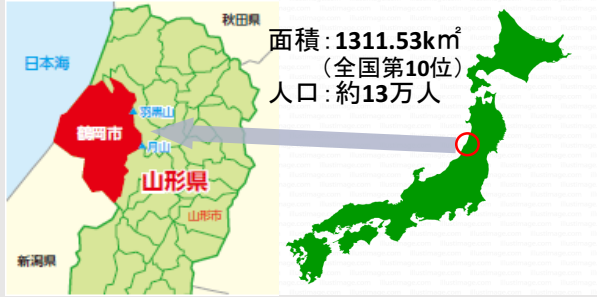


2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

森里川海、日本遺産、バイオベンチャー拠点が融合するまち



国内唯一のユネスコ食文化創造都市



今後のビジョン・計画

まちづくり構想のキャッチフレーズ

「毎日、おいしい。ここで、暮らしたい。」

7つの『未来創造のプロジェクト』で推進

- 若者・子育て世代応援
 - 全世代対照型地域包括ケア推進
 - 食文化・食産業創造
 - 産業強化イノベーション
 - 城下町鶴岡リブランディング
 - 輝く女性活躍推進
 - 地域国際化SDGs推進**
- ・総合計画に地域循環共生圏づくりについて設定済



2020年度 SDGs未来都市選定
地域国際化SDGs推進プロジェクトを
中心に未来都市計画を推進させる

SDGsに関する特徴的な取組



いのち輝く、創造と伝統のまち 鶴岡



★2020年度「SDGs未来都市」に選定

★SDGs未来都市鶴岡 社会面でデジタル化を推進

新型コロナ感染拡大などがもたらした社会状況の変化に対応するため、「持続可能性の重視」、「デジタル化(DX/Society5.0)の加速」



デジタル戦略への取組

★総合計画の地域国際化SDGs推進プロジェクトを中心にSDGs未来都市計画を推進

★産官学等によるSDGs推進

【デジタル化推進:民間事業者連携】

- 市民ヘルスケアサービス向上
- デジタル人材の育成
- SDGsプラットフォーム創出
- デジタルガバメント構築



★持続可能なまちづくりに向けた産官学等の連携

●(株)野村総合研究所との連携協定

・鶴岡市が進める「デジタル化による構造改革事業(スマートシティ推進及びデジタルガバメント構築)」における連携活動に関して基本合意書を締結



「NRIサステナビリティ・ブック2020」より

●市立荘内病院と国立がん研究センター東病院との医療連携

・遠隔診療を通して、地域医療を充実するとともに、荘内病院のがん医療の高度化を図るため、医療連携に関する協定締結

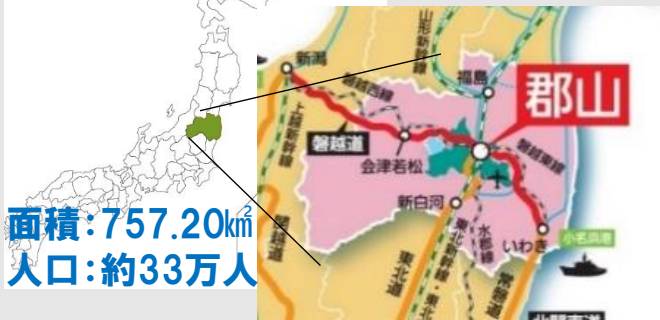


2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

交通の要衝「東日本のクロスポイント」
 福島県をリードする経済圏「経済県都」
 高度な研究機関が多数立地「知の結節点」



今後のビジョン・計画

将来都市構想

「みんなの想いや願いを結び、
 未来(あす)へとつながるまち 郡山
 ~課題解決先進都市 郡山~



●全施策をSDGsターゲットと関連付け

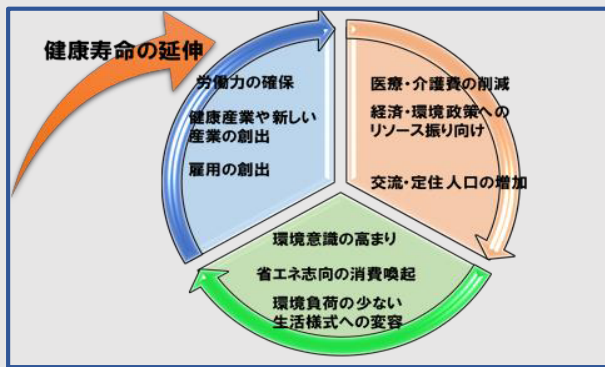


SDGs未来都市こおりやま

SDGsに関する特徴的な取組

★ オープンデータの分析による健康施策(EBPM)

★ 科学的根拠に基づく健康寿命延伸対策(EBM)



健康寿命延伸による好循環

次世代につなぐ豊かな圏域の創生
 「地域経済の活性化」
 「地域の持続可能性確保」

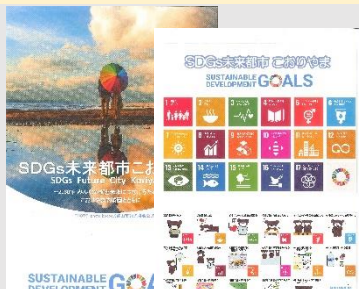
・こおりやま広域圏16市町村で連携し、健康寿命対策について郡山モデルとして全国に発信
 ⇒ESG投資を呼び込み「自律的好循環」の形成を図る

★ 多様なステークホルダーと連携し、SDGsを推進



SDGsアワードの開催

・企業・学校等の優れた取組を表彰



高校生と連携した啓発活動

・高校生がデザインしたシールを配布



交通機関と連携した啓発

・バスマスクやタクシーへのマグネットシールによる啓発

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

面積：387.20km²
人口：約38万7千人



宿場町、門前町、城下町、行政拠点…と中世鎌倉時代から時代に合わせて柔軟に役割を変化させながら広域で中心的な役割を担ってきた岡崎市

西三河経済を支える暮らしの中核中核都市

自然 文化 歴史



市域の3分の2が山間部



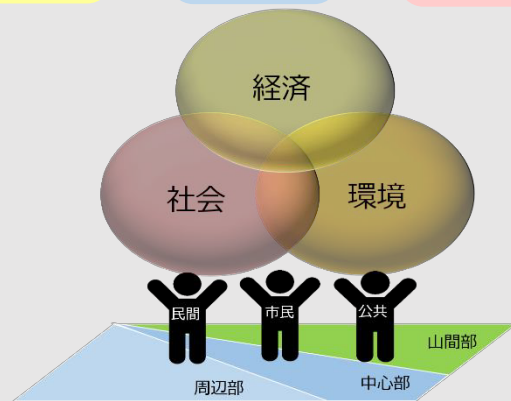
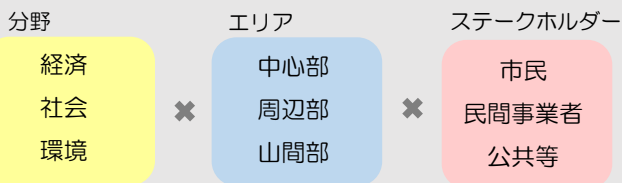
花火発祥の地
東海地区屈指の花火大会



家康公生誕の地
まちのシンボル岡崎城

今後のビジョン・計画

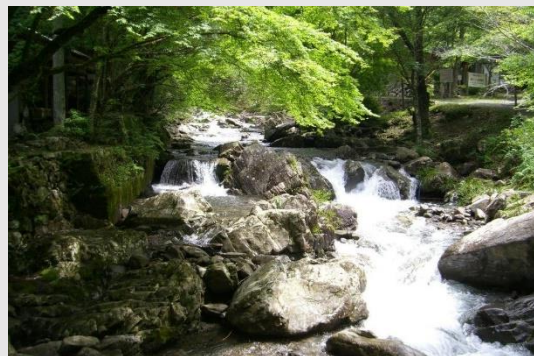
三側面×3セットで好循環を構築



SDGsに関する特徴的な取組

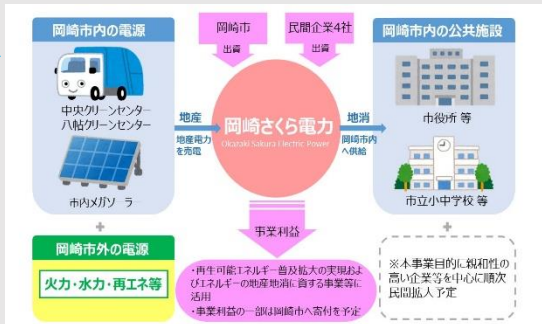
環境 Ecology

森林が持つ多面的機能を確保するため、仕事づくり・担い手確保・山間部への移住促進などについて統合的に取り組む地域商社を設立する。



経済 Economy

地域電力小売会社『岡崎さくら電力』を設立し、エネルギーの地産地消の実現による地域経済の活性化を目指す。



社会 Social

子育て世帯をはじめとする市民ニーズに沿った情報提供及び施策展開を実現し、暮らしの中核中核都市を目指す。

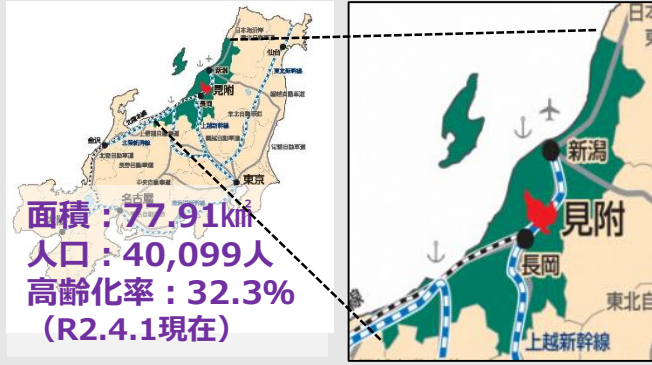


2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

新潟県の中央(重心点)に位置する
県内で最もコンパクト(面積が小さい)な市



バランスの取れた産業構造へとシフト



今後のビジョン・計画

歩いて暮らせるまちづくり「ウォークラブルシティ」
実現のための5つのポイント



SWCとSDGsの連携

健康まちづくり「スマートウェルネスシティ(SWC)」
総合計画にSDGsを統合・整理

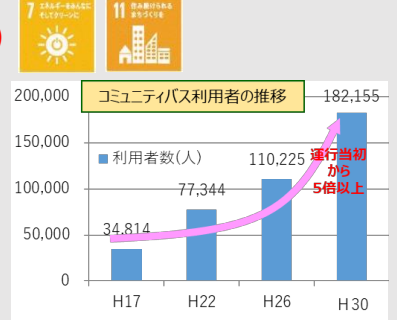
SDGsに関する特徴的な取組

★公共交通の利用促進(過度な車依存からの脱却)

公共交通 → ウォークラブルシティの根幹的なインフラ

各交通手段の特性を踏まえて役割分担

- ・中心市街地内は約30分間隔でコミバスを循環運行
- ・郊外から中心市街地への接続はデマンドタクシー
- ・居住エリアと各種サービス施設を連結



公共交通の利用促進 → 持続可能な公共交通の形成

①「まち歩き」と「コミバス」をコラボ
スタンプラリー-BINGO



②コミバス全車にラッピング
オリジナルデザインSDGsマーク

③交通空白・不便地域への対応強化
新たなモビリティの導入検討



④統一デザインでまちを彩る
バス停上屋、健康ベンチ

★ソーシャルキャピタルの醸成(SDGsの理解・ビジョンの共有)

SWC、SDGs推進のカギは人材

地域住民が主体となり地域づくりを行う仕組み「地域コミュニティ」

- ・地域コミュニティの設立地域はソーシャルキャピタルが高い
- ・設立準備期間に約1年半をかけ住民の「自分事」に



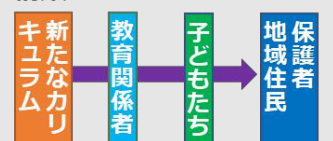
学校教育を通じた子どもたちへのSDGs教育

長岡技術科学大学
国連アカデミック・インパクト
SDGsゴール9ハブ大学

プログラミング
教育
2020年から必修化

プログラミング教育を通じて
SDGsを学べる
カリキュラムを構築

SDGsを一般化し、社会に
広く根付かせていく仕組みを
構築



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

人口: 153万人
⇒政令指定都市20市中**6**位
面積: 144.35km²
⇒政令指定都市20市中**20**位

日本有数の製造業集積都市
・先端技術開発拠点都市



今後のビジョン・計画



SDGsに関する特徴的な取組

水素社会の実現(化学×ホテル)

使用済みプラスチック由来低炭素水素を活用した地域循環型水素地産地消モデル実証 (昭和電工)

世界初となる使用済みプラスチック由来低炭素水素を活用したホテル

使用済みプラスチック → H₂パイプライン供給 → 大型純水素燃料電池 → 川崎キングスカイフロント 東急REIホテル

約30%のエネルギー量をカバー

- 電気: 100kW/h
- お湯: 1,620ℓ/h (60℃)

川崎臨海部とブルネイ間の水素サプライチェーン構築実証



臨海部の戦略的な産業集積と基盤整備

☆臨海部ビジョンの推進

- ・ステークホルダーとの共有による戦略的マネジメント
- 石油化学、鉄鋼、エネルギー関連施設の集積

☆国際戦略拠点の形成

- ・ライフサイエンス分野における世界トップクラスの研究機関集積



◆キングスカイフロント (殿町国際戦略拠点)

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

人口72.1万人 面積789.95km²

山陽、山陰、四国、近畿、九州を結ぶ結節点に位置し、鉄道、道路などの交通網が集中する中枢拠点都市です。

北は中国山地、南は瀬戸内海に面した肥沃な岡山平野に位置する本市は、瀬戸内海特有の温暖な気候に恵まれ、晴れの日が多いことから「晴れの国おかやま」とも呼ばれています。医療、福祉などの分野で高度な都市機能が集積しており、住みやすい生活環境が整っています。



日本三名園の一つ岡山後楽園と岡山城、日本で4番目の大きさの造山古墳など史跡が豊富です。



白桃、マスカット、ピオーネ等高級フルーツが特産品です。フルーツパフェも人気です！

今後のビジョン・計画

令和2年度中

新規「岡山ESDプロジェクト基本構想」策定

※現行の「岡山ESDプロジェクト2015-2019基本構想」の後継

岡山市の各種計画へSDGsを盛り込んでいます

■岡山市第6次総合計画後期中期計画[R3策定]

主な事務事業について、SDGsの17の目標をマッピング

■岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2期)[R3策定]

地域課題解決のための持続可能な取組の項でSDGs及びESDに言及

■第2次岡山市環境基本計画

SDGsの要素を踏まえた施策展開

■岡山市消費者教育推進計画

SDGsをエシカル消費と関連づけて明記

※その他、公民館基本方針、生物多様性地域戦略、岡山連携中枢都市圏ビジョン等にSDGsを盛り込んでいる。

SDGsに関する特徴的な取組

ESDの推進によりSDGsの達成に貢献します

ESD (Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育) はSDGsの全ての目標達成の鍵。社会課題解決を目指した学びと実践、人材の育成など、本市が2005年から取り組んできたESDを一層推進していくことにより、SDGsの達成に取り組んでいます。

2005年 岡山ESD推進協議会設置「岡山ESDプロジェクト」開始
2014年 ESDに関するユネスコ世界会議を本市で開催2016年 「岡山ESDプロジェクト」がユネスコ/日本ESD賞受賞
2018年 岡山市がユネスコ学習都市賞受賞

都市間連携・産学官連携

■「おかやまSDGsアワード」の実施

岡山県内のSDGs達成に向けた優良事例を顕彰。産官学民が連携した組織により2020年度から実施。



■岡山連携中枢都市圏

岡山連携中枢都市圏を構成する8市5町で住民や行政職員を対象にSDGs、ESDに関する研修を実施。



SDGs未来都市 重点事業の推進

「誰もが健康で学び合い生涯活躍するまちおかやまの推進」をテーマに岡山市の豊富な医療資源を活かした健康づくりの取組を進めています。また、2019年G20岡山保健大臣会合において本市の取組を世界に向けて発信しました。

■取組内容 OAIを活用した健康見える化事業

OSIB健康ポイント事業「おかやまケンコー大作戦」

OSIBを活用した生涯活躍就労支援事業

SDGs推進体制を整備

市長、副市長、局長、区長などから構成される「岡山市SDGs推進本部」を設置。また2020年度から従前の「ESD推進課」を「SDGs・ESD推進課」とし、岡山市としてSDGsを積極的に推進していく姿勢を明確に打ち出しました。

SDGs普及・啓発事業

■市民へ啓発イベント、学び合うフォーラムを開催



大型商業施設でSDGsを学ぶ「未来わくわくSDGsフェスタ」を開催



産官学民が学び合い、今後の取組につなげる「SDGsフォーラム」を開催



月に1回、「ESDカフェ」を開催。SDGsの17の目標からテーマを1つ決めた講演と参加者の交流会を実施している。

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

環境先進都市を目指す亀岡市

位置：京都市の西方約20km

人口：約8.8万人

面積：224.80km²

＼ 亀岡市全体を包む霧 ／



今後のビジョン・計画

ピンチをチャンスに。

市民が社会的につながり、
商業・投資・イノベーション
が活発な都市

農業や自然とともに暮らす都市

ごみを極力出さない社会

SDGsに関する特徴的な取組

課題解決を活動テーマとする「かめおか霧の芸術祭」をハブに、行政とアーティストらが協働して分野横断的に人々をつなぎ、循環的な経済圏や新陳代謝のあるコミュニティを形成し、課題＝テーマが多くある地域こそその地方創生を実現！

★やおやおや(農業の魅力発掘と農家と消費者の交流の接点づくり)プロジェクト

- ・ 建築デザイナーや芸術家、料理人・農家が協働して生み出したキッチン付きの移動式屋台「やおやおや」を直売所や畑に配置。
- ・ 様々な角度から農業の魅力を発掘し、農家と消費者の交流を生み出す。



★KAMEOKA FLY BAG Project

- ・ パラグライダーの廃材をエコバッグとしてアップサイクル



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

九州南西部、熊本県の南端に位置

1つの自治体の中で、海・山・川の生態系がコンパクトに完結し、人々の暮らしと生業が営まれている。



地域の資源の一例



撮影: 霧下 氏

今後のビジョン・計画

2030年のあるべき姿

みんなが幸せを感じ
笑顔あふれる元気なまち 水俣

経済

地域資源を有機的に結び付けた産業活動を展開し、地域の持続に必要な所得獲得を目指す。

社会

活動人口の増加を目指し、多様な「人づくり」を推進し、人材を循環させる。

環境

経験と教訓の発信、市民協働による「環境まちづくり」活動を継続し、環境共生社会を構築する。

SDGsに関する特徴的な取組

第6次水俣市総合計画における「目指す将来像」

「みんなが幸せを感じ」
「笑顔あふれる元気なまち」

反映

SDGsの理念

誰一人取り残さない
経済・社会・環境が元気で、そこに住む人たちは笑顔である。



- ① 活力ある地場企業づくり
- ② 地域資源を活かした観光の振興
- ③ 地産地消と“みなまたブランド”づくり



- ⑦ 地域における温室効果ガス排出量の削減
- ⑧ ごみの分別適正化と減量
- ⑨ 協働による環境保全活動の推進



- ④ 豊かな心で未来に挑戦する人づくり
- ⑤ 次世代を担う人材の育成
- ⑥ 元気に老い、いきいきと生きがいのあるまちづくり



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

人口:約375万人
事業所数:11.5万事業所

美しい
港町



日本最大の基礎自治体である横浜市は、高い「市民力」を強みとしています。

今後のビジョン・計画


- SDGsを意識してあらゆる施策に取り組むこととしています。(中期4か年計画)
- 環境・経済・社会的課題の統合的解決を図る「大都市モデル」を創出します。



ビジョン

環境を軸に、経済や文化芸術による新たな価値・賑わいを創出し続ける都市の実現

SDGsに関する特徴的な取組

○ ヨコハマ SDGs デザインセンター 

環境・経済・社会的課題の統合的解決を図る「横浜型大都市モデル」の創出に向け、多様な主体との連携によって自らも課題解決に取り組む中間支援組織

<企業と連携して取り組む試行的取組の例>



○横浜市SDGs 認証制度 “Y-SDGs”

事業者等のSDGs 達成に向けた取組を横浜市が認証する制度。

認証制度を活用し、SDGs に取り組むことで、持続可能な経営への転換、新たな顧客や取引先の拡大につなげます。



さらに詳しい情報は、デザインセンターホームページからご覧いただけます！



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

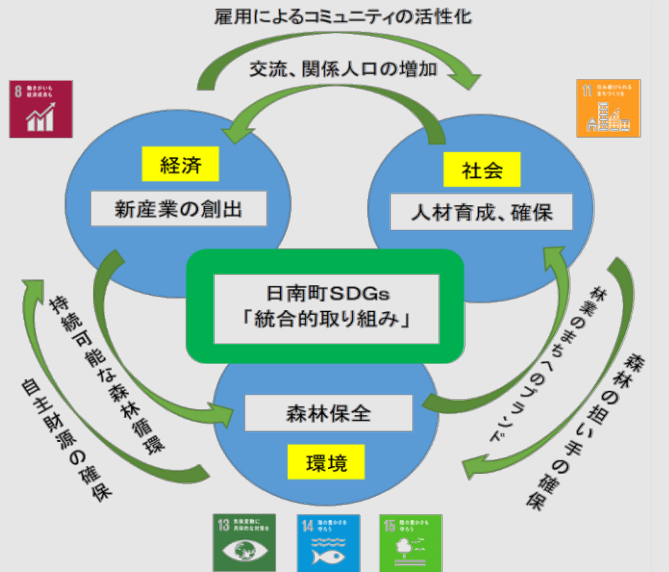


自治体の概要



鳥根県・広島県・岡山県に隣接し、面積の9割を森林が占め、高齢化率は50%を超える。過疎化が進行する「日本の30年後の姿」の町として多くの学術機関におけるモデル地域となっています。農業・林業を中心とした第一次産業が主役とし、緩やかな人口減少を実現させる町民総活躍の「創造的過疎」のまちづくりへ挑戦しています。

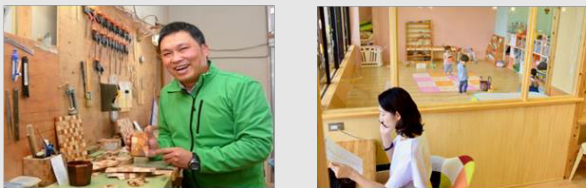
今後のビジョン・計画



SDGsに関する特徴的な取組

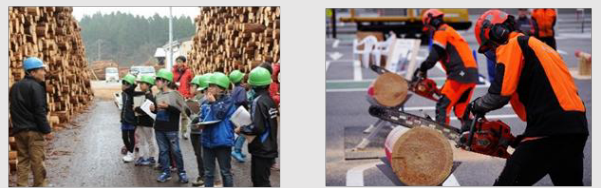
しごとをつくり、安心して働けるまちづくり

- ・「木のおもちゃ」の製造、販売
- ・木育を基軸とした「コワーキングスペース」整備



日南町への移住、定住の促進

- ・「林業従事者の確保」と「森林意識の継承」
- ・全国に発信する「生涯森林教育プログラム」の構築



第一次産業を元気にする！SDGsにちなんチャレンジ2030



ヤンマー株式会社 とのお米や農産物等を中心としたブランド化におけるタイアップ

日本通運株式会社 との森林保全活動や木材利用の促進を中心としたタイアップ



～SDGsチャレンジにちなん2030～

「創造的過疎のまち」というコンセプトのもと、「持続可能なまち」を目指し、自主財源、地域資源の乏しい本町にあっては、企業、団体等のステークホルダーとの連携が不可欠。

17 パートナースhipで目標を達成しよう



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

面積: 39.72km²
 人口: 110,919人(2020年1月末時点)
 大阪府の南東部に位置し、都市部へのアクセシビリティと豊かな自然環境、府内唯一の重要伝統的建造物群保存地区である富田林寺内町を有する。



今後のビジョン・計画

2030年のあるべき姿
 いのちが輝き みんなで理想を追求する
 魅力と活力あふれるまち富田林



優先的なゴール



2030年のあるべき姿の実現に向け、大阪府が「いのち輝く未来社会」をめざすビジョン」でめざすオール大阪での取組の地域実装として、また2025年開催の万国博覧会による府域・市域におけるSDGsや健康に対する市民・企業等の機運を最大限に引き上げ、本市取組方針に基づき、力強くSDGsの実現された社会をめざす。

SDGsに関する特徴的な取組

いのち輝く“まちまるごと”健康プロジェクト

①「商助」による持続可能なエコシステム構築事業

- ・店舗や福祉施設等を活用した有償型健康事業の実施
- ・健康活動拠点として民間施設等の環境整備



②学生派遣による実学経験(PBL)事業

- ・健康事業の担い手として大阪大谷大学生の育成事業を実施
- ・「富田林応援団」としての登録と活用(関係人口)

③健康・環境×SDGs普及啓発事業

- ・地域企業・団体等の参加によるイベント事業で、ロールモデルの横展開と民民連携の促進

富田林市SDGs
 パートナーシップ制度



富田林市公民連携デスク

「富田林市産官学医包括連携協定(TOMAS)」に基づき、①～③の事業を連動させながら実施する。また、公民連携デスクとSDGsパートナーシップ制度を活用することで、新たな連携と付加価値創出、事業の加速化・活性化を図る。

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

面積：326.45km²
人口：約233万人(増加傾向が続く)

100km圏
50km圏
30km圏

- ・広域的な交流ネットワークの中心地
- ・世界レベルの産業技術
- ・商業・サービス業が集積

今後のビジョン・計画

第20回アジア競技大会の開催 リニア中央新幹線(品川-名古屋間)の開業

飛躍のチャンス!

- ・住みやすさ
- ・強い経済力
- ・にぎわい
- ・持続可能性

を兼ね備えた、



世界から選ばれる
世界に冠たる「NAGOYA」へ

SDGsに関する特徴的な取組

経済

イノベーション創出の促進



▲イノベーション拠点
「ナゴヤ イノベーターズ ガレージ」

社会

新たな路面公共交通システム (SRT) の導入



▲新たな路面公共システム
(SRT)イメージ

環境

水素エネルギーの利活用の推進



▲イベントでのFCVの展示・
外部給電実演

経済・社会・環境をつなぐ統合的取組

SDGs 未来創造クラブ

なごや環境大学の中に「SDGs未来創造クラブ」を設置し、地域課題の解決とSDGs達成に向けた事業展開を検討するまちづくりプロジェクトと、SDGs学習プログラムを制作し子どもたちのSDGsへの意識を育むとともに家族や友人への波及を通して、SDGs達成を支える人づくりプロジェクトを実施中

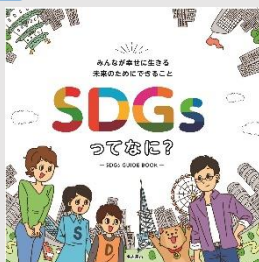


まちづくりプロジェクトの様子



SDGsの普及啓発

- ・普及啓発冊子「SDGsってなに？」の作成
- ・SDGs IDEA FORUMの実施



詳しくは名古屋市公式ウェブサイトへ ▲

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

世界自然遺産登録候補地、手付かずの大自然、コバルトブルーの海、闘牛、アマミノクロウサギ、伝統芸能 等



今後のビジョン・計画

世界自然遺産候補地である貴重な自然環境とそれらと共存してきた人の暮らし・文化を島に暮らす私たち自身が再評価

人と自然環境との共存という現代世界の抱える課題への挑戦事例を提供できる地域社会を実現する。

「あこがれの連鎖」が絶えないチャレンジの島を目指す。



SDGsに関する特徴的な取組

★島嶼SDGsキックオフシンポジウム



高岡町長により、人づくりを政策の柱としてきた経験や島の有している価値観を未来につなぎ、多様な主体とのパートナーシップを構築し、SDGsの『誰一人として取り残さない』という重要理念及び経済・社会・環境の一体となった取り組みを推進する徳之島町SDGs推進宣言がなされた。(令和2年2月14日)



★地域おこし協力隊OBが管理するコワーキングスペースを活用した事業の展開



離島のハンデを克服するため、時間や場所にとらわれないテレワーカーの育成を推進。

住民、島内外企業、大学、行政等のプレイヤーが「対話会」によりつながり、人々が創造性を図れる島を目指している。



★ふるさと納税型クラウドファンディングの実施



県立高校の自学自習室の整備、全校生徒に学習アプリの導入、Wi-Fiの整備。

幼木の食害被害から守るための柵の設置、子供たちへの環境学習の実施、啓発グッズによるアマミノクロウサギの事故等防止。



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

- 人口 約203万人
- 面積 約13,600km²(全国4位)
- 有数の山岳高原都市
- 全国有数の健康長寿県



▲ポールウォーキング

今後のビジョン・計画

県の総合5か年計画を
SDGsの行動計画
として策定



SDGs全国フォーラム長野2020

- ・開催日時: 2021.1.30(土)～31(日)
- ・開催方法: 会場参集とオンライン配信
- ・内容: 講演、パネルディスカッション、取組紹介

詳細はポータルサイトから▼

<https://shinshu-sdgshiroba.com/>



SDGsに関する特徴的な取組

➤ 長野県SDGs推進企業登録制度

- ・ステークホルダーとの連携による地域SDGsコンソーシアムを立ち上げ
- ・コンソーシアムにおける検討結果をもとにSDGsの達成に意欲的に取り組む企業を登録・PRする制度を構築



➤ 信州屋根ソーラーポテンシャルマップ

- ・ステークホルダーとの連携による協議会を立ち上げてソーラーマッピングの構築や普及策について検討
- ・2018～2019年度の2か年かけて「信州屋根ソーラーポテンシャルマップ」を構築するとともに活用促進、普及啓発を実施



➤ 信州地域デザインセンター

- ・公・民・学が連携し市町村のまちづくりを支援するほか、セミナーや研修会の実施による人材育成、情報収集・発信を実施



▲ 築94年の元足袋店をリノベーション

★ ポータルサイト、Instagramで情報発信

(ポータルサイト) <https://shinshu-sdgshiroba.com/>

(Instagram) <https://www.instagram.com/shinshu.sdgs.diary/>



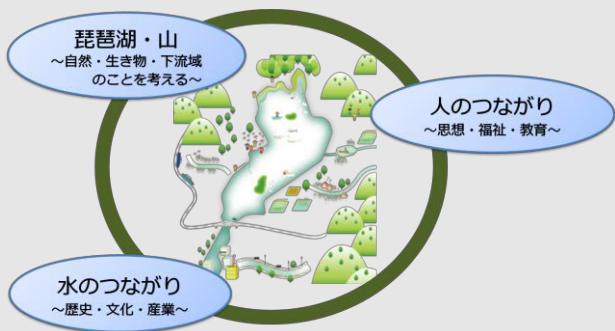
▲ ポータルサイト ▲ Instagram

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



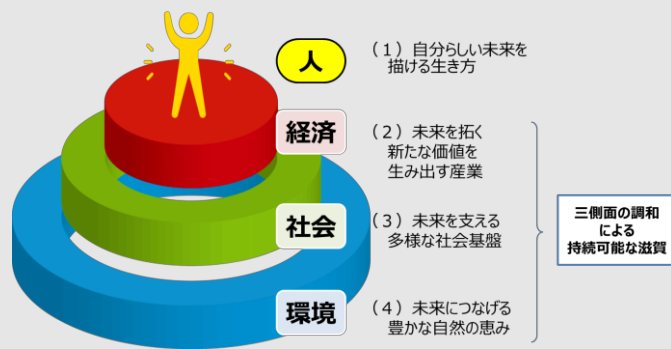
自治体の概要

- 琵琶湖を健全な姿で次世代に引き継ぐため、「石けん運動」など官民挙げて環境保全に取り組んできた地域
- 中世以降、全国で活躍した近江商人の「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」の精神や、戦後日本の「障害福祉の父」と呼ばれる糸賀一雄氏の「この子らを世の光に」という思想を受け継ぎ、実践してきた土地



今後のビジョン・計画

●みんなで目指す2030年の姿を描いた将来ビジョン「滋賀県基本構想」は、「変わる滋賀 続く幸せ」を基本理念に、長寿社会の到来、飛躍的な技術革新、世界的な脱炭素化社会の進展等の変化に直面する中、私たちがしなやかに変わり続け、行動することにより、自分らしい未来を描ける生き方と、その土台となる経済、社会、環境のバランスの取れた持続可能な滋賀の実現を目指している。



SDGsに関する特徴的な取組

滋賀県基本構想にSDGsの特徴を生かし県の政策へ反映

- **2018年10月、滋賀SDGs×イノベーションハブを設置**
社会的課題の解決に向けたイノベーション創出のため、産官金で共同設置
- **2018年11月、滋賀×SDGs交流会を開始**
様々な分野のSDGs実践者のパートナーシップ拡大を目的に実施
- **2019年7月、SDGs未来都市に選定**
世界から選ばれる「三方よし・未来よし」の滋賀の実現を提案
- **2020年4月、滋賀県庁SDGsアクションを策定**
部門別計画や施策へのSDGsの考え方を反映

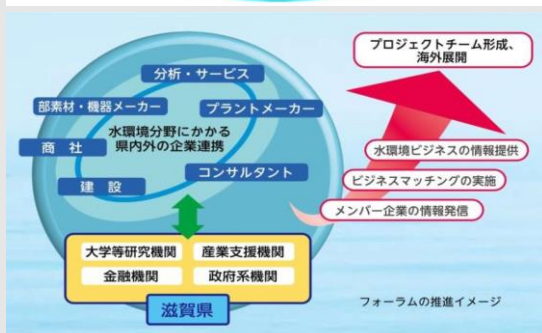
森・川・里・湖のつながりの中で環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環

里山や琵琶湖周辺において成り立ってきた森林資源や在来魚介類等の地域資源を、地産地消等の取組により、人、財、製品、サービスとして地域内で循環



しが水環境ビジネス推進フォーラム (Team Water Shiga)

水環境関連の産業・研究機関の集積や水環境保全の取組を活かした水環境ビジネスの展開を図るとともに、国内外の水環境問題の課題解決に貢献



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要



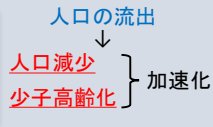
震災からの復旧・復興

被災者の住まいの整備

防災拠点等の整備

東日本大震災

- 2011年3月11日14時46分発生
- 震度6強 (M9.0)
- 死者3,277人、行方不明419人



今後のビジョン・計画

今後の取組課題

- 震災に起因した **地域コミュニティの崩壊**
- 復興公営住宅における **高齢者の孤立化**
- **公共交通の利便性不足**
- 未来技術導入の遅れ

● ハイブリッドリユース事業の展開

● 地域交通情報アプリケーションの構築
● コミュニケーションロボットの活用

● グリーンスローモビリティの活用

「おたがいさま」の声があふれる支え合いのまちづくり

- 地域経済の活性化
- 環境にやさしい新たな移動手段の構築
- 高齢者の外出機会の創出・孤立防止

コミュニティを核とした持続可能な地域社会となり、「地域の中に相手を思いやる『おたがいさま』の声があふれる支え合いのまちづくり」が実現

SDGsに関する特徴的な取組

経済面

ハイブリッドリユースのイメージ

ハイブリッドユニット回収 → リビルド → 地域経済の活性化 → メンテナンス → 販売 → 再製品化

社会面

地域交通情報アプリケーションのイメージ

①ハイブリッドリユース事業の展開

- ハイブリッド自動車の基幹ユニットをリユースする事業を展開し、地域の新産業として定着化

グリーンスローモビリティを活用した協働による新たな移動手段の構築事業

「おたがいさま」の声があふれる支え合いのまちづくり



太陽光電池搭載の非接触給電ステーション、グリーンスローモビリティのイメージ



ロボットによる高齢者支援のイメージ

③コミュニケーションロボットの活用

- AIロボット活用により高齢者のIoT/ICTサービス利用を支援

④グリーンスローモビリティの活用

- ハイブリッドリユース事業で生産された電気自動車による100%自然エネルギーのグリーンスローモビリティの活用

環境にやさしい新たな移動手段



環境面



学生によるロボット製作のイメージ



高齢者の外出機会の創出・孤立防止

社会面

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

水と森林と人を育む 利根川源流のまち **みなかみ**



- ・谷川岳や利根川源流域などの日本を代表する自然環境
- ・観光や農業がさかん
- ・2017年にユネスコエコパークに登録
- ・2019年にSDGs未来都市に選定

首都圏からすぐの距離に大自然が

上越新幹線の駅(上毛高原駅)があるので東京から最速66分。車でも関越自動車道で90分。



今後のビジョン・計画

MINAKAMI HEART

— 世界中から愛されるみなかみに —

みなかみの宝 ▶ ワールドクラスのすばらしい自然

まもる

いかす

ひろめる

豊かな自然環境や文化を未来につなぎ、人と自然が共生するまちづくり

国内外から多くの人を訪れる、世界中から愛されるまちづくり

郷土愛に満ちあふれた人を育むまちづくり



SDGsに関する特徴的な取組

～ ユネスコエコパークのまちとしてSDGsの推進にチャレンジ ～

森林資源を活用した稼ぐ力の強化と循環経済の確立

- ◆ 面積の9割を占める森林資源を活用し、川上から川下まで一貫した流通システムを「みなかみモデル」として構築
- ◆ 町内での買い物のほか、エコ活動やボランティア活動等と連動したポイントシステムにより、地域で活動・消費する意識を高める



▲自伐型林業担い手育成



▲国産材高級家具メーカーと連携

地域に根差した特色ある教育の推進と関係人口の増加

- ◆ 地域に対する誇りや愛情を育むため、地域の自然や文化など多くの魅力とその重要性などを学ぶ環境学習を推進
- ◆ 森林や木との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育てる「木育」を推進
- ◆ 官民連携やサポーター制度によるSDGs推進体制を構築

▼地域の特色をいかした環境学習



生まれてきた赤ちゃんに本町が発祥のカスタネットをプレゼント▲

森林・里山整備と木質バイオマス利用推進

- ◆ 水源地である本町の森林を再生・整備することは、森林が有する多面的機能(生物多様性の保全、土砂災害の防止、水源の涵養、地球温暖化の防止、木材等の生産、保健休養の場の提供など)を持続的に発揮させるために不可欠
- ◆ 町内の公共施設や温浴施設、宿泊施設などの大型施設、飲食店などの小規模な事業者や一般家庭への薪ボイラー・ストーブの導入を積極的に推進



町内民間事業者が薪ボイラーを導入▲

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

埼玉県
さいたま市

面積：217.43km²
人口：約132万人

～一人ひとりがしあわせを実感できるまち～
DGs 未来都市
aitama City

2019年にSDGs未来都市に！

岩槻の人形！ 大宮の盆栽！ 浦和のうなぎ！

今後のビジョン・計画

2つの将来都市像

上質な生活都市 東日本の中枢都市

SDGs(統合的解決)の理念を取り込み
2つの将来都市像の実現を目指す

SDGs

さいたま市を「住みやすい」「住み続けたい」と思う市民の割合
90%以上を目指す！！

SDGsに関する特徴的な取組

食品ロスの削減



特売で買った缶詰やいただきものがたくさん残っている…
工夫はしてみたけれど、どうしても家庭では食べきれない…



- 家庭の余った食品を回収し福祉施設等に寄付をする
フードドライブを展開！
- 食品ロス削減を目指す地域の事業者と**チーム Eat All**を結成！
➔ **公民連携で食品ロス削減！**

スマートホーム・コミュニティの整備



- さいたま市地区基準を採用した**高気密・高断熱仕様**！
- コモンスペースを活用した**地域コミュニティの創出と電線類の地中化**！
- 先進技術を活用して**省エネ電力を地域内で融通**！
- ➔ **平時の省エネ・快適性&災害時の高いレジリエンス性**！

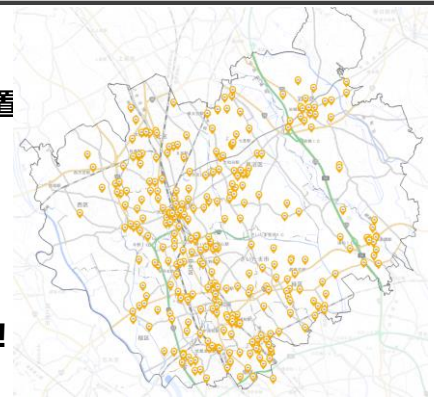
高気密・高断熱仕様



シェアサイクルの推進



- 市内に約**300ポート**以上設置
(今後も増設予定！)
- 約**5万回/月**の利用！
- **気軽に地域を回遊**できる！
- ➔ **高い利便性と環境への配慮**！



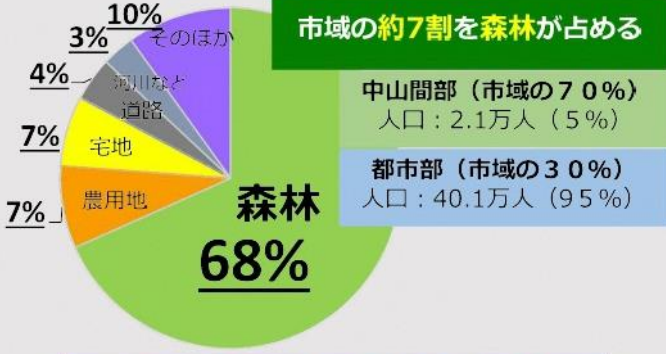
2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

日本の縮図

-都市と中山間地の共存-



ものづくりのまち 自然豊かなまち



今後のビジョン・計画

「まち」と「いなか」の人や企業、
地域、技術をつなぎ
好循環が持続するまちを目指す



SDGsに関する特徴的な取組

「都市」と「山村」が共存し、さまざまな人、地域、企業の魅力やチカラをつなぎ、「エネルギー」「モビリティ」「ウェルネス」を重点にSDGs達成に向けた取組を広げていきます。

環境

環境モデル都市の経験や実績を活かした低炭素化の推進

- ・2050年までにCO₂排出量実質ゼロを目指し、「ゼロカーボンシティ」宣言 (2019.11)

社会

多様な担い手が支える新たな社会システムの構築

- ・豊田市と共にSDGsの達成、持続可能なまちの実現に向けた取組を実施「とよたSDGsパートナー」

経済

次世代自動車の拠点と新たな産業創出による産業の強靱化



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

人口：414,354人(2020年9月30日現在)

面積：1241.74km²(県全体の約3割)



- ・海の幸、山の幸、美味しい水が楽しめる！
- ・売薬さん発祥の地「薬都とやま」



今後のビジョン・計画

コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市の実現



SDGsに関する特徴的な取組

★「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選定



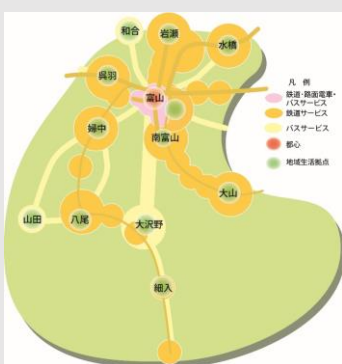
SDGsの達成に向けた優れた取り組みを行う都市「SDGs未来都市」、さらに、特に先駆的な取り組みと評価された「自治体SDGsモデル事業」に選定。
(2018年6月15日選定)

都市の理想を、富山から。



SDGs未来都市
TOYAMA

★公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり



鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、文化等の都市機能を集積させることで、自動車への過度な依存と公共交通・市街地の衰退からの脱却を図る。



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

- 人口 約11万人
- 白山連峰と日本海の豊かな自然や伝統文化
- 空港と新幹線駅による抜群のアクセス力
- 日本が誇るものづくり産業が集積

北陸新幹線小松駅
開業予定

今後のビジョン・計画

小松市都市デザイン 北陸の際立った「国際都市」へ

10年ビジョン 時代変化を見通し、変化を先取りした
まちの将来イメージ「10年ビジョン」

NEXT10年ビジョン (2015年～)

SDGsの考え方を
予算にリンク

まちと地球の持続と成長をめざして
2040年に向けた新たなビジョンを制作中

SDGsに関する特徴的な取組

経済分野
人口・社会の変革期での
産業の持続的成長に向けて

- 産業イノベーション
- 里山ビジネス展開
- 誰もが活躍できる就労環境

社会分野
はつらつとした健康づくりと
やさしさが幸せへの道しるべに

- 予防先進の健康福祉
- 多様性ある地域社会づくり

環境分野
「木場潟」をシンボルに
環境共生を推進

- 里山・木場潟再生
- 環境・美化活動、フローラル

- ◆ 力強い民の力で世界共通の課題を克服
- ◆ 学びの力は新しい未来づくりのエンジンに

学びの力・民の力をさらに高める

企業・大学と連携 市民大学 子どもたちへの普及展開

特色ある教育の推進

まちづくりの指標(ランキング)で上位を獲得

SDGs先進度 (日経グローバル)	住みよさランキング (東洋経済新報社)	介護・高齢化 対応度調査 (日経グローバル)
全国 45位 (社会分野 9位)	全国 8位	小松市 1位

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

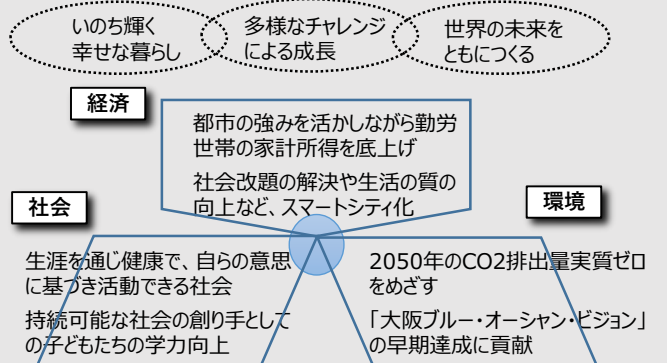
水の都：大阪
 人口800万人を超える西日本の中心的都市
 世界文化遺産「百舌鳥・古市古墳群」に代表される長い歴史に加え、「政治」「経済」「文化」の中心地として発展



今後のビジョン・計画

2025年大阪・関西万博の開催都市として、一人ひとりがSDGsを意識し、自律的に17のSDGs全ての達成をめざす「SDGs先進都市」の実現に向け、取組みを推進

2030年のあるべき姿と主な取組み



SDGsに関する特徴的な取組

- **2020年 SDGs未来都市に選定（大阪府・大阪市）**
 都道府県と市町村による共同提案の選定は全国初！



自治体SDGsモデル事業では、昨年、大阪で開催された「G20大阪サミット」の象徴的レガシーである「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を先導する取組み大阪発「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進プロジェクトに取組みます。



- **オール大阪でSDGsを推進**



さまざまなステークホルダーと連携しながら、お笑いなど大阪ならではの活動を交えつつSDGsを広げていきます。



「おっ！ SakaまるごとSDGs」イベント（2020年8月26日）
 （大阪府内の中小企業向けに大阪商工会議所とのコラボレーションによりSDGsを啓発）



ひがしなり企業区民連携フォーラム「ひがしなりソケットLAB.」
 成果発表会（2020年2月8日）
 （東成区内の企業や団体等との情報交換及び「SDGs推進力」の向上を目的として区役所が実施したワークショップ等の成果を発表）

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

- 面積 635.16 km²
- 人口：192,907人 (平成27年国勢調査)

広島県の中央部に位置



酒の都、そして海山の自然豊かなまち



今後のビジョン・計画

第五次東広島市総合計画における将来都市像 (2020年3月策定)

未来に挑戦する自然豊かな国際学術研究都市
 ~住みたい、働きたい、学びたいまち、東広島~

SDGsに関する特徴的な取組

国際研究拠点ひがしひろしま形成プロジェクト

①オープンイノベーションや国際交流推進のための場づくり等

- ・大学とともに整備する「**国際交流拠点施設**」の活用
- ・まちづくりを担う人材の育成につながる留学生等の外国人市民との交流を図るための場づくり(国際交流イベントの実施)



②大学と一体となった地域課題解決の体制づくりと調査・研究の推進

- ・**未来構想(スマートシティ・スーパーシティ)**の具体化に向けた調査・研究の実施
- ・大学(教育・学生)と市職員が自由な発想で調査研究を行う仕組みづくり

③大学との政策課題共同研究の実施(地域政策課題共同研究)

- ・社会的課題の解決を図るための 市内大学との共同研究を実施



広島大学

④SDGsパートナー制度の創設

- ・SDGs未来都市東広島の実現、SDGs17の目標達成に向け、東広島市等と連携した取組や活動を実施している(又は意欲のある)企業、市民団体等とのネットワークの構築





2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

二つの一級河川、緑豊かな丘陵、工業
面積：27.55km²
人口：約18万人

東京都の中心！

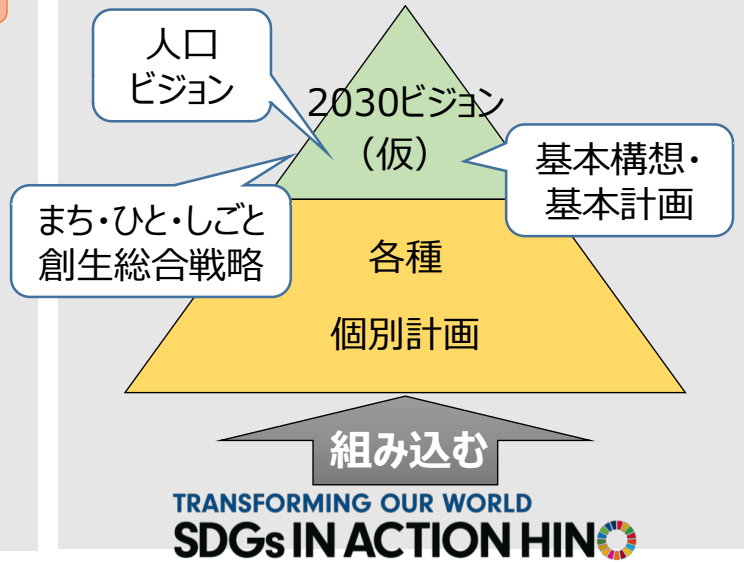


新選組のふるさと



今後のビジョン・計画

2021年度：新たな市の長期総合計画（2030ビジョン）を策定予定



SDGsに関する特徴的な取組

★2019年、東京都内初のSDGs未来都市に選定★

「市民・企業・行政の対話を通じた生活・環境課題産業化で実現する生活価値（QOL）共創都市」を目指す。



①対話を重視したまちづくり（住民・企業・行政の連携基盤づくり）

「価値共創ポータル」の開設

社会課題をテーマにした官民連携の相談窓口
→企業との協定、各種実証事業・新規事業の実施

「SDGs人材」の育成

次世代の社会の担い手が地域で学ぶ機会をつくる。
→地域探求学習「持続可能な日野の未来を創る高校生チーム」



②生活課題産業化（研究開発型・イノベーション主導型の地域産業）

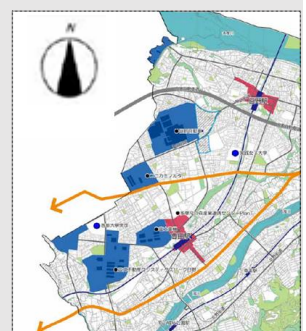
「日野リビングラボ」の実施

生活上の課題を市民、企業、地域団体や行政等の対話により解決を目指す。
→①シェアリングエコノミー実証の実施
②コロナ禍における高齢者の見守りサービス技術開発



「多摩イノベーション創出拠点モデル地区」に選定（東京都）

地域の特性や強みを生かし、イノベーション創出環境の整備を図る。
→①SDGsによる地域の産業、大学等のネットワーク強化
②社会実証の手法開発、民間投資の促進



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

人口:約3,800人 面積:212.13km²



四国の水を賄う水源のまち!



西日本最大級の「早明浦ダム」が広大な湖面を形成
棚田や溪谷などの水源環境、土佐あか牛の最大産地

今後のビジョン・計画

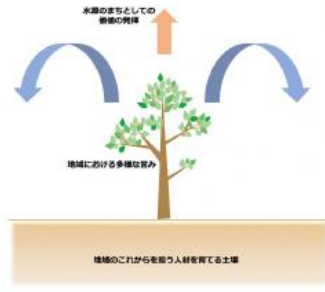
SDGsと住民幸福度に基づいた誰ひとり取り残さない持続可能なまちづくり

位置づけ 第7次土佐町振興計画(総合計画) 第2期土佐町総合戦略 他

水源涵養・保全
市街地と農村部の相乗生業を通じた水源保全

地域の産業のリデザイン
地域の産業創出
全世代・全員活躍

人材を育てる土壌づくり
地域の教育環境の充実



人口減少下でも持続可能な水源のまちに!

SDGsに関する特徴的な取組

★ SDGsの視点を踏まえて町総合計画を策定

・町民が大切に守ってきた「これまでの土佐町」を町民幸福度調査で把握するとともにこれからもそれを持続可能な姿にしていけるためSDGsの視点を取り入れ、町の総合計画を策定

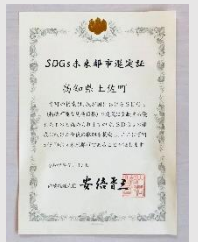
○ 2030年の地域のリーダーたちが主体

・2030年に町のリーダーとなる現在20代~40代が主体となって計画の骨子を検討。



○ 高知県初の「SDGs未来都市」に選定

・高知県第1号のSDGs未来都市に選定。四国内でも第2号



★「水源のまち」の持続可能性をテーマに、様々な取組を実施

・四国全体の水を賄う「水源のまち」がこれからも持続可能であるためには、地域において多様な営みが維持されていくことが必要。



高等学校魅力化やICT教育、探究的な学び、起業教育など、質の高い学びの機会の保証



カナディアンカヌーやSUPなどのアウトドアアクティビティ、競技カヌーの振興など、豊かな水を活かした産業創出



棚田や山林など、生業を通じた水源保全や涵養の実態把握

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

玄界灘に浮かぶ島・壱岐
温暖で年間を通して過ごしやすく、
自給自足が可能！！

人口：約2.6万人
面積：139.42km²

九州最大都市の福岡市から
高速船で約1時間

壱岐な（粋な）グルメ～海の幸・山の幸～

今後のビジョン・計画



SDGsに関する特徴的な取組



- 「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選定
 - ・日本における「SDGsモデル」となる先進都市「SDGs未来都市」29都市の一つに選定される。離島で初めて、選定を受ける。
- 「気候非常事態宣言」を発出
 - ・国内で初となる「気候非常事態宣言」を発出。
2030年までに、化石燃料から再生可能エネルギーへの完全移行を目指し、CO2排出量を実質ゼロにする。
- 総合計画・総合戦略にSDGsを組み込む
 - ・“誰一人取り残さない”という「SDGs未来都市計画」のビジョンと整合し、その実現のための政策・施策を示す計画とする。
- 壱岐活き対話型社会「壱岐（粋）なsociety5.0」
 - ・地域課題を解決するため、IoTやAIなど先進技術の積極的な導入と、交流起点のまちづくりを推進する。



・SDGs未来都市選定証授与式



・シンポジウムでの基調講演



・毎年、SDGsイベントを開催し、市民に、壱岐市が行っているモデル事業の取組を紹介。



・SDGs対話会で「壱岐の未来を創るテーマ」を創出。



・市内中学校にSDGsの授業を実施。

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

清流の国ぎふ

面積：10,621.29km²（全国7位）

人口：約199万人

★国土のほぼ中央に位置



★全国でも有数の森林県

森林面積は、86.2万ha（全国5位）で、県土面積の81%（全国2位）を占める。

豊かな森林に育まれた豊富な水は、「清流」となり、県内をあまねく流れている。

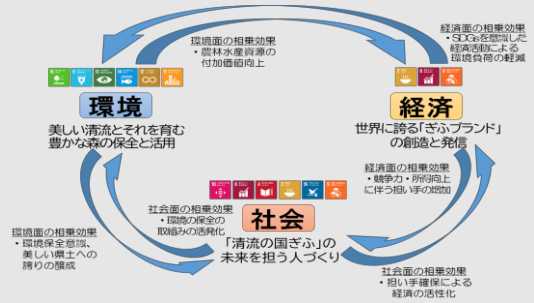
今後のビジョン・計画

SDGs未来都市計画

取組概要 ～「清流の国ぎふ」の創生×SDGs～

環境	経済	社会
美しい清流とそれを育む豊かな森の保全と活用 ・環境保全の推進 ・次世代エネルギーの導入促進 ・災害から命を守る対策の促進	世界に誇る「ぎふブランド」の創造と発信 ・「ぎふブランド」の創造と発信 ・各分野への未来技術の導入	「清流の国ぎふ」の未来を担う人づくり ・女性、障がい者、外国人材の活躍促進 ・豊富な森林資源を活用したぎふ木育の推進 ・ふるさと教育の展開 等

統合的取組みによる相乗効果



SDGsに関する特徴的な取組

《2030年のあるべき姿》 自然と人が創り出す 世界に誇る「清流の国ぎふ」

●「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワークの設立 R2.4.15

1. 情報発信・情報共有

- ◆ 会員向けに**メールマガジン**を発信（月2回）
- ◆ 県ホームページ上に**会員の取組みやお知らせ**を掲載

「オール岐阜」でSDGsを推進します。

2. 普及啓発

- ◆ 会員向け**セミナー**の開催（県内5圏域）
- ◆ 地域情報誌へ啓発記事掲載 ◆ ポスター・リーフレットの作成

3. 会員間連携マッチング支援

会員の目標や課題に対して、他の会員から提案を募集することにより、会員間の連携を促す**マッチング支援**体制を構築。

●SDGs達成に向けた支援

清流の国ぎふ推進補助金〔SDGs推進事業枠〕 市町村支援 R2年度新設

住民や企業等のSDGsへの理解を醸成するため、市町村が実施する普及啓発事業、SDGsの理念に沿った取り組みにより、持続可能な地域づくりに寄与する先導的な事業に対する支援。

「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワーク連携促進補助金 会員支援 R2.6月補正

「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワーク会員が、単独または他の会員と連携して実施する「コロナとともにある新しい日常」に資する事業に対する支援。

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

抜群の広域アクセスと 住みやすさを誇るまち

空港のあるまち

救命力世界一

音楽あふれるまち

面積: 36.6km²
人口: 約40万人

今後のビジョン・計画



SDGs推進のキープレーズ



とよなか40万人がSDGsを
実践し、未来につなぐ

SDGsに関する特徴的な取組

★「40万人のとよなか未来バトン」を合言葉に！



- ・地域を構成する市民・事業者・行政全員がSDGsを実践する。
- ・心をひとつに、未来のバトンをつないでいこう。



SDGs研修



小学校での
ESD学習発表会



SDGs啓発ポスター

★「SDGs未来都市」に選定

- ・SDGsモデルとなる先進都市「SDGs未来都市」に2020年度選定。



○ SDGs未来都市計画の推進

- ・とよなか子育て世帯定住促進プロジェクト
→ 全員参加型のSDGsコミュニティの創出



2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

- ・面積: 84.59km²(県内で2番目に狭い)
- ・人口: 69,328人(2020年12月1日現在)
- ・人口密度: 819.6人/km²(県下NO.1)



眼鏡、繊維、漆器の三大産地産業を中心とした「ものづくり」のまち



今後のビジョン・計画

笑顔があふれる持続可能な「めがねのまちさばえ」

鯖江市「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の4つの基本目標

- ① 魅力ある雇用の創出
- ② 若者が住みたくなるまちの創造
- ③ 若くて元気なまちの創造
- ④ 安心して快適に暮らせるまちの創造

目標達成のための4つの重点施策のうちの一つに、「SDGsの推進」を設定



鯖江市SDGsシンボルマーク「グローバル」

SDGsに関する特徴的な取組

さばえSDGs推進センターオープン

- ★人・もの・情報がつながる拠点として、市のランドマークであるめがね会館の9階に整備
- ★センターを中心に本市の取組を国内外へ発信
国内外の情報を収集し市民へ提供

<https://www.sabae-sdgs.jp/>



ホームページ



facebook



instagram

女性が輝くまちづくり



- ★「鯖江市役所JK課」「鯖江市JKOG課」
「おかみさん会」など、あらゆる世代の女性がまちづくりに参加
- ★「インポスター症候群ゼロ運動」の推進や
「国際女性デー」に合わせたPRキャンペーンの実施



JK課発案の事業「ヒカヒカプラン」の様子



「国際女性デー」に合わせた「オレンジメガネキャンペーン」を実施

鯖江産眼鏡の全国購入支援キャンペーン(総額2億1千万円)

- ★SDGsの推進をきっかけに繋がった全国の眼鏡小売店と産地
鯖江が連携・協力し、鯖江産眼鏡の購入者対象に一律3千円を
キャッシュバックするキャンペーンを実施中(～2021.3.31)



産地からの
総額1億5千万円
キャッシュバック
キャンペーン

- ★コロナ禍で苦境に立たされている眼鏡業界を関係者全員で力を合わせて
盛り上げるとともに、売上金の一部を医療従事者支援に充てる予定。



キャンペーンHP